

平成29（2017）年度

F D研究部会活動報告書

第9号

徳島文理大学
徳島文理大学短期大学部

巻 頭 言

本学の FD 研究部会は、発足して足掛け 11 年になり、2018 年度初めに 100 回目の部会を開くことになる。この間、研修会や講習会の開催、授業評価アンケートの実施、研究授業および卒業生満足度評価アンケートの実施と多岐に渡った活動を行ってきた。しかし、ここに至って、本学独自の FD 活動を展開できるかの岐路にさしかかっている。

そこで、原点に帰って、FD (Faculty Development) の定義と現状を踏まえた役割について考えてみよう。

FD とは、「教員が授業内容・方法を改善し向上するための組織的な取組の総称。その意味するところは極めて広範にわたるが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。」(中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像」(2005.1)) とある。更に、「FD は一般には広義と狭義の解釈が成り立つ。広義には、広く研究、教育、社会的サービス、管理運営の各側面の機能の開発であり、それらを包括する組織体と教授職の両方の自己点検・評価を含む。狭義の FD は、主に諸機能の中の教育に焦点を合わせる。教育に関する FD は、総論的には教育の規範構造、内容(専門教育と教養教育)、カリキュラム、技術に関する教授団の資質の改善を意味する。」(有本章著「大学教授職と FD」(2005)東信堂)ともある。本学における今までの活動は、定義に則って狭義の解釈に忠実に教員の資質の向上を目指してきた感がある。ここで現状を踏まえて、広義の解釈に沿って考えてみることにする。

大学は、18 歳人口の減少に伴い、入学してくる学生に対して三つのポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシー)を明確にし、学生の質の保証を謳っている。これは学部・学科に関わるカリキュラムを最適にし、含まれる科目の質を向上し、これらを受講する学生の質を最大限高めることを意味している。そのためには、研究、教育、社会貢献および管理運営の各側面を充実していかなければならない。特に薬学部等では、モデル・コアカリキュラムが提唱されており、国家試験対策に供されている。国家試験のない学部・学科においては、コアカリキュラム、言い換えればコア科目が明確にされているであろうか。これが学部・学科の特徴と深く関係しているものと考えられる。コア科目に則って、カリキュラムの全体像が明らかにされ、これらを習得した学生の特徴が浮き彫りにされ、修了学生のパターンが分類される。そして、学生のアウトカムが整理され、進路の方向性が明確にされる。教員は、これらを踏まえて送り出す学生のイメージがつかめ、コア科目に基づいて担当する科目を充実したものに作り上げることができると考えられる。

これら一連のカリキュラムの構築は、研究、教育、社会貢献及び管理運営の充実と切っても切れない関係にあるとともに、新任教員を受け入れる際には非常に役立つことになる。さらに、座学に、演習、実験・実習を有機的に結びつけることにより、重要事項の反復・繰り返しを徹底することができ教育の効果を高めることが可能になる。特に、学生が学生を教えるという制度(SA、TA および RA)を活用することにより、好結果をもたらすことができると考えられる。これらも広義の FD とみなして、今後の本学の発展に寄与できると確信している。

本活動報告書が、本学の特徴ある FD 活動へ一歩踏み出すための糧になることを希求して、巻頭の挨拶といたします。

F D研究部会活動報告書

目 次

1. はじめに	1
2. F D活動の内容	1
3. 研修会・講演会	2
4. 全学授業評価アンケート	4
5. 研究授業	6
6. 卒業生満足度評価アンケート	12
7. I C T利用による運営改善	14
8. おわりに	17
9. 用語解説	18
10. 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部 F D研究部会内規	19
(資料編)	
1. F D研究部会部員一覧表・会議	21
2. 研修会・講演会	23
3. 全学授業評価アンケート	27
4. 研究授業	37
5. 卒業生満足度評価アンケート	41

1. はじめに

「徳島文理大学 FD 研究部会」は、学士課程の FD 義務化を受け、全学的 FD 活動の推進・支援を目的として平成 19 年 12 月に設立された全学委員会の一つである。設立以降の活動の詳細は、「FD 研究部会活動報告書」（平成 22 年 5 月創刊、以降年次刊行）にまとめられている。本報告書（第 9 号）は、平成 29 年度（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）の活動成果抄録である。ご一読いただき、ご意見・ご要望を各学部の FD 研究部員までお寄せいただければ幸いである。

2. FD 活動の内容

年度当初からの SD 義務化に伴い、SD 推進委員会が立ち上がり、協力して FD 活動を進めることとなった。また、認証評価受審年度であることから、自己点検・評価委員会とも協働しつつ FD 活動を進めてきた。

まず、昨年度から新設された「新任・昇任教員研修会」について、実施時期や内容の見直しを行い、4 月 5 月の土曜日実施とし、前期 5 回の短時間開催を 2 回に集約して関係教職員の負担軽減と内容の精選・実習時間を確保した。来年度は、FD 研究部会としては、講義以外のアクティブ・ラーニングなどの授業形態の紹介とトレーニングに特化した研修会とすべく準備を進めている。また、Google for Education の様々な機能を活用いただくために、学内教員に加え、情報センター職員の全面的協力が得られたことも大きい。また、昨年に引き続き、研修会講師の学内教員による担当、また、研修会の一部の学外公開により、県外からの参加者を得たことも、学内の教職員の研修意識を向上させることに寄与したと考えている。今後も、学内外の双方からの講師をうまく連携させ、より効果的な研修プログラムの編成に努めていきたい。

今後の研修は、教員各位が担当する講義・実習・演習科目で少しでも活用いただけるような内容を構成し、スキルアップにつながるアクティブ・ラーニングを意識した研修、学内の様々なシステムを効果的に活用する方法や実践の研修が考えられる。また、FD と SD が一体となって受講できるようなインフォメーションや協力体制も構築していく必要がある。多様化していく学生に応じた授業や学生対応への支援に向け、ハード・ソフトの両面から何ができるか、何が必要かを常に検討していきたい。

全学授業評価アンケートは、授業改善に関する学生のコメントを教員が次期以降にどのように活かしているか、また活かす努力を続けているかを、学生が知る機会のひとつである。現在の紙ベース無記名方式、また質問項目のリニューアルを、検討中の WEB 化を契機に実質記名式にし、出席状況、成績等のデータとリンクさせて教員各位が分析できるようなシステム改良を検討中である。

卒業生満足度評価アンケートは、昨年度、全学的に Web を用いた方式に移行した。担当の FD 委員には、多大な負担とご援助を頂いたほか、情報センター等の関係部局にも並々ならぬご尽力をいただいていることを付記し、厚く御礼申し上げる次第である。毎年、改良を重ねてきており、順調によいデータが蓄積されてきている。

教員相互の授業参観(研究授業)は、参加教職員数の伸び悩みが相変わらずあり、抜本的な改革の時期にきていると思われる。実施の新任・昇任教員研修受講者に課している授業公開について、時期や教員を指名するなど新たな風をおこす必要がある。

来年度は、本年度の認証評価を受審して、その報告を真摯に受け止め、次の認証評価に向かってスタートする初年度となる。その大きな柱の一つは、教職員がどのような取り組みを行って授業改善を進めているかに加えて、教職員相互、学生などからの評価を次の授業改善にどのように生かしているか、その結果、どのような成果がえられたかが挙証できることにある。入学した学生をカリキュラムに沿ってどのように伸ばし、卒業後につなげるかが問われることになる。講義等によって、学生に伝えたいことが着実に伝わって定着できているかが重要である。そのために教職員各位の創意工夫と成果が強く求められる段階を迎えているといえる。FD 研究部会としては、SD 推進委員会とも連携し、さまざまな気づきと授業改善の方法のインフォメーションとトレーニングの場を提供することを目指していきたい。教職員各位の倍旧のご理解とご援助・ご協力をお願いする次第である。

3. 研修会・講演会

3-1 現状

FD の重要な取り組みの一つに授業方法についての研究会および新任教員のための研修会の実施がある。

本年度実施した FD 研修会・講演会（以下まとめて「研修会」と呼ぶ）は、以下に示す(1)の通りである。これらは、『平成 28 年度 FD 研究部会活動報告書』において指摘された改善点、すなわち「本学の教員を講師とする研修会」や「学外にも受講を呼びかける研修会」を引き続き増やすとともに、「発達障害等の障害学生支援・配慮についての研修会」を新たに実施すること、また「デジタルツールの利用についての研修会」は欠かせない等の諸点に基づいて企画・実施したものである。

なお、一覧表の中の香川 C は香川キャンパスを、徳島 C は徳島キャンパスを表している。また、(2)には SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）主催の研修会、(3)には今年度実施した新任・昇任教員研修会を示す。

(1) 学内研修会

第 1 回 FD/SD 研修会・講演会（FD 対象）（SPOD 遠隔配信）

- ・ 日 時：5 月 18 日(木)13：30～15：30
- ・ 演 題：「アクティブラーニング入門講座」
- ・ 講 師：小林 忠資（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 特任助教）
- ・ 会 場：徳島キャンパス 25 号 4 階 スタジオ型講義室
(香川キャンパスは学内行事と重なったため中止とした。)
- ・ 参加者：徳島 C 17 名（香川 C からの参加者 2 名を含む）

第2回 FD/SD 研修会・講演会 (FD 対象) (SPOD 遠隔配信)

- ・日 時：9月11日(月)13:30～15:30
- ・演 題：「大人数講義の基本」〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉
- ・講 師：小林 直人 (愛媛大学学長特別補佐 教育企画室長)
- ・会 場：徳島キャンパス： 25号館4階 スタジオ型講義室
香川キャンパス： 図書館3階 AVホール
- ・参加者：徳島C12名、香川C8名、合計20名

第3回 FD/SD 研修会・講演会 (FD/SD 対象) (SPOD 遠隔配信)

- ・日 時：9月11日(月)16:00～17:30
- ・演 題：「3つのポリシーの開発と一貫性構築」
- ・講 師：小林 直人 (愛媛大学学長特別補佐 教育企画室長)
- ・会 場：徳島キャンパス： 25号館4階 スタジオ型講義室
香川キャンパス： 図書館3階 AVホール
- ・参加者：徳島C13名、香川C9名、合計22名

第4回 FD/SD 研修会・講演会 (FD/SD 対象) (SPOD講師派遣プログラム)

- ・日 時：9月13日(水)14:00～15:30
- ・演 題：「学生の理解と関わり方」
- ・講 師：野本 ひさ (愛媛大学教育・学生支援機構学生支援センター 副センター長/教授)
- ・会 場：主会場 香川キャンパス図書館 3階AVホール (遠隔配信で徳島Cに送信)
副会場 徳島キャンパス25号館4階スタジオ型講義室
- ・参加者：徳島C28名、香川C41名、外部6名、合計75名

第5回 FD/SD 研修会・講演会 (FD 対象)

- ・日 時：香川キャンパス 9月14日(木)13:00～15:00
徳島キャンパス 9月15日(金)13:00～15:00
- ・演 題：「本学LMSの基本操作実習 (google classroom等のやり方他)」
- ・講 師：小林 郁典 (FD委員・理工学部 電子情報工学科)
- ・会 場：香川キャンパス 10号館 3階ターミナル室(1)
徳島キャンパス 25号館 (メディアセンター) 3階メディアラボ
- ・参加者：徳島C13名、香川C16名、合計29名

(2) 学外研修会 (SPOD：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)

SPOD フォーラム 2017 「Feeling と Thinking を Learning につなげる」

- ・日 時：平成29年8月23日(水)～8月25日(金)徳島大学常三島キャンパス
- ・参加者：香川C10名、徳島C23名、合計33名

(3) 新任・昇任教員研修会

第1回 平成29年4月15日(土)

- 10:30～11:10 「徳島文理大学のめざす方向と大学教員としてあるべき姿について」
- 11:10～11:20 「徳島文理大学における教育について」

- 11：20～12：00 「本学学生の学力特性について」
- 12：10～12：50 「ランチョン・セミナー」
- 13：00～15：00 「学生主体の授業展開①（google classroom を活用したアクティブ・ラーニング）」

第2回 平成29年5月13日（土）

- 10：30～11：15 「カリキュラム・プランニングについて」
- 11：15～12：00 「シラバスのケーススタディについて」
- 12：10～12：50 「ランチョン・セミナー」
- 13：00～15：00 「学生主体の授業展開②（google classroom を活用したアクティブ・ラーニング）」

3-2 点検・評価

本年度の学内の研修会についていえば、昨年度同様参加者の絶対的な少なさが問題になっている。本年度は一部の研修会をDVDに記録し、参加していない教員に見てもらおうという方法もとられたが、研修会は一同に会して聴講・体験するところに意義があるのであって、DVDを見るだけでは本来の目的は達せられないだろう。それにDVDを見るだけで済むのなら、研修への不参加を正当化することにもなりかねない。

そもそも研修への不参加者が多いのは、用務やスケジュールの都合ばかりではなく、FDへの無関心が大きな理由ではないだろうか。もしそうであれば、FDへの意識改革を促す取り組みも検討しなければならぬ。

4. 全学授業評価アンケート

4-1 現状

平成26年度現在、学生による授業評価を実施した大学は、国公立全体で752大学（約98.4%）である（文部科学省2016）。本学では平成20年度前期にはじめて、授業改善のための基礎資料を収集する目的でアンケート形式により学生の授業評価を実施し、平成25年度からハイブリッド授業評価アンケート方式を導入している。マークシート方式でアンケートを行い、その結果を電子化し、過去の結果との経年比較、全体平均との比較、クロス集計など結果の分析が可能となっている。また、各授業担当教員に、アンケートの集計結果に対するコメントや翌年度以降の授業に向けた対応を「アクションプランシート」として作成することを依頼している。記入はWeb上で行え、アンケート結果とアクションプランシートを合わせて学生に公開できるシステムになっている。

4-2 点検・評価

(1) アンケートの実施状況

平成29年度は、クォータを含む全期で実施した。実施期間は、第1クォータが5月23日から6月3日、前期と第2クォータが7月10日から24日、第3クォータが11月9日から21日、後期と第4クォータが平成30年1月4日から26日までである。

実施率は表 1 のようになっている。前期・後期とも 99.4%と高いが、わずかながら実施できていない科目もあり、今後、実施率 100%を目指したい。

表 1 授業評価アンケート実施状況（平成 29 年度）

	前期			後期		
	総科目数	実施科目数	実施率	総科目数	実施科目数	実施率
徳島 C	559	559	100.0%	539	538	99.8%
香川 C	310	305	98.3%	321	317	98.9%
全 体	869	864	99.4%	860	855	99.4%

(2) フィードバックの状況

教員によるアクションプランシートの作成は、表 2 のようになっている。アクションプランシートが未記入の場合は、担当教員に記入を催促する対応をしている。後期は退職される先生方もいるため記入率が下がっている。一部連絡が伝わらないなどの問題により、記入率がやや低調であったが、後期には改善している。引き続き、記入率 100%を目指したい。

表 2 アクションプランシートの記入率（平成 29 年度）

	前期	後期
徳島 C	99.8%	98.5%
香川 C	100.0%	97.5%
全 体	99.9%	98.1%

授業評価の集計結果とアクションプランシートの開示期間は、平成 29 度前期のものが平成 29 年 10 月 17 日から平成 30 年 9 月 27 日まで、平成 29 年度後期のものが平成 30 年 4 月 2 日から平成 31 年 3 月 19 日までである。また、開示範囲は学内のみとし、キャンパス毎にパスワード付きの PDF 形式のファイルで、学内サーバーにより公開している。

4-3 改善計画（改善点）

授業評価アンケートは、平成 31 年度からは Web 化での実施を目標に作業を進めている。現行の学期ごとに行う紙ベースでの前処理、後処理作業の煩雑化、また、紙媒体のままでは次期認証評価に差し障りが生じてくることからアンケートの Web 化を目指している。

授業評価アンケートは単に授業の良し悪しを評価するためのものではなく、先生方がアンケート結果を基に授業をより良いものに改善していくためのものである。学生の評価を真摯に受け止めるとともに、複数年の横断分析が可能なシステムを活用して、より分かりやすく効果的な授業に向けた改善の取り組みが進められることを期待したい。

授業の改善は、学生との共同作業でもある。学生による授業評価の記入内容の信頼

性を高めるとともに、さらに良い授業評価になるように、アンケート項目、実施時期、方法など、授業評価アンケートの改良に向け、今後さらに論議を深めていきたいと考えている。

5. 研究授業

5-1 現状

「研究授業」は、平成 20 年度後期より、徳島・香川両キャンパスの全学部において実施しており、今年で 10 年目となる。平成 29 年度は、徳島キャンパスで 17 科目（前期 7 科目、後期 10 科目）、香川キャンパスで 9 科目（前期 3 科目（4 日）、後期 6 科目）、両キャンパスで合計 26 科目（27 日）の研究授業を実施した。各学期の実施回数は、各学部及び各学科の教員数及び講義数の実情を踏まえながら決定している。各学部及び各学科は「教員相互による授業参観型」もしくは「目標設定型」として実施した。

(1) 目的

「教員相互の授業参観型」は、研究授業を開始した当初より実施しており、教員が授業を参観することにより、授業改善のために参考になるもの、取り入れられるものを見つけ、自分自身の授業に活かしていくことが目的となっている。各教員の教授法の向上と学生の理解力や思考力の向上を目指しており、授業担当者の教授法に対し、悪い点を指摘するためのものではない。

「目標設定型」は平成 24 年度より導入している。あらかじめ教授方法や授業運営上の改善点を設定し、定めた期間の中で調査・研究を行うものである。効果的な授業技術の掘り起こしとそれらの共有が主な目的となる。

(2) 実施方法

昨年度は 3 つのタイプ「教員相互による授業参観型」、「目標設定型」、「オープンクラスウィーク」を設け、各学部及び学科に実施を依頼した。しかし「オープンクラスウィーク」は、昨年度と一昨年度の 2 年連続において実施報告がなかったため、今年度は選択肢に設けなかった。各学部及び学科は、「教員相互による授業参観型」か「目標設定型」のどちらかを研究授業として選択した（両方実施も可能）。実施頻度は各学部及び学科に委ねている。

「教員相互による授業参観型」の実施方法は、学期の始めに各学部及び学科の授業担当者と研究授業を補助する授業協力者を定め、授業担当者は研究授業を対象とする科目及び実施日を決める。実施科目と実施日については FD 研究部会が情報をまとめ、事務局が「研究授業予定」一覧表を作成し、全学の教員に周知した。周知の方法については、より研究授業の重要性と参加を呼び掛けるため、今年度から二つの新たな取り組みを実施した。一つ目は、周知のために使われていた従来の「研究授業予定」一覧表に新たな項目「教授法」を加え、全教員が事前に教授法を知ることができるようにした。アクティブ・ラーニングの導入など、事前にどのような手法で講義をおこなうのかを把握する

ことにより、各研究授業科目への興味と参加の動機付けとなることを目指したものである。二つ目は、これまで一覧表による周知としていたものに加え、さらに研究授業の科目毎に全教員に対して事務局よりメールを送信し周知を行う手段を取り入れた。

参観範囲は、これまで同様に所属学科に関係なくどの科目でも参観可能とした。研究授業の進行及び記録は授業協力者（あるいは学部、学科の評価・FD委員会）が行い、原則として1講時90分の内、授業開始から60分を授業参観とし、残りの30分を授業担当者、授業協力者及び授業参観者による意見交換会の時間とした（授業90分、意見交換20分の場合もある）。意見交換会では「(1)目的」にある研究授業の主旨に基づき討議を行った。研究授業実施後は、2週間以内に別紙の様式（表1）に授業担当者と授業協力者（あるいは学部、学科の評価・FD委員会）によって、研究授業記録を作成することとした。

研究授業記録はFD研究部員を通してFD研究部会へ提出される。その他、「教員相互による授業参観型」は新入生宿泊セミナー研修内で実施したグループワークのファシリテート（公開授業）も研究授業の対象としており、昨年度に引き続き、今年度も文学部から1科目（2日）が報告されている。

「目標設定型」は、授業技術の向上のためテーマや新しい取組み等を目標に挙げ、その目標を達成するために必要十分とされる実施期間を設定し、各学期始めに学内で公表する。その目標は期間内に達成可能なものを設定しなければならない。実施期間終了後は、代表者はすみやかに実施した取組みについて研究授業記録（表1）を作成し、FD研究部会に提出する。

表1 研究授業記録様式

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部		学 科	
授 業 者		科 目 名 (シラバス番号)	()
授業協力者		実 施 教 室	
実 施 日 時	平成 年 月 日 曜日 講時		
対 象 学 生		受 講 学 生 数 :	名
ま ち じ			
授業テーマ			
研究授業内容自己評価			
研究授業参観者の意見・感想			
授業参観教員数	名		

研究授業（目標設定型）記録			
学 部		学 科	
実施代表者			
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		
目標の説明			
対 象 学 年 または科目		受 講 学 生 数 :	名
具体的な取組み方法			
結果			
協力教員数	名 (内訳)		

表2 学部、学科別の研究授業実施数と研究授業の参加者数(名)の推移

年度	平成20 2008		平成21 2009		平成22 2010		平成23 2011		平成24 2012		平成25 2013		平成26 2014		平成27 2015		平成28 2016		平成29 2017	
	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期
年間研究授業実施数	26	21	9	12	16	16	17	16	16	17	16	11	17	15	15	18	10	18	10	16
香川薬学	28	24	14	14	32	25、18	25、22、26	9	9	9	9	15	19	22	18	27	21	20	15	15
文学部	9	9	8		9	2						3	4		9				7	3
薬学科	1	3	4										23	5			5			
英語英米文学	3	3		26								8		5、4		4、5		5		
文化財																				
信泊ゼミナール					12															
学部内合計	13	15	8	4	21	2	19	9	9	11	23	4	4	14	9	11	5	11	3	3
機械創造	6		8	10	7						4				2					4
電子情報		6		4		5														
ナノ物質	6		10	6	4															
臨床工学		8		11		2						5								
学部内合計	12	14	18	21	11	7	10	5	4	4	4	5	4	7	2	8	7	2	8	10
薬学部	10	5	7	5	7	8	5	2	2	7	4	7	4	7	7	未提出	未実施	4	4	4
人間生活	6		5	3		2														
食物栄養	3、3	4、3	2	3		4														
心理	2、3	5、4		2	5		2													
児童	4、4	2、3		6		5														
デザインサイ	4、6	4		3	4															
建築デザイン	4、2	3		4	3		5													
学部内合計	41	28		23	12	11	11	6	9	9	9	9	17	12	8	10	15	15	18	18
総合政策学部	10	11	8	5	6	6	8	4	6	6	6	5	5	10	10	3	3	3	3	3
音楽学部	13	3	4	2	3	4	3	3	3	3	0	0	2	1	3	3	3	3	6	6
臨床工学																				
診療放射線																				
保健福祉学部	4、5	1	2	3	3	1	1	1	1	7	5	6	1	1	1	4	4	4	4	4
人間福祉				1	1	4	3	2	0	2	0	2	1	1	1	0	1	1	1	1
理学療法	6、10	5	17	14	6	6	8	8	8	8	8	13	9	12	7	8	5	5	5	5
看護																				
学部内合計	5	4																		
保育																				
生活科学																				
商科	4		4	2	3	5														
言語コミュニケーション				4	3	4														
音楽				6	4	3														
学部内合計	9	9	10	6	7	8	6	110	98	139	119	62	80	54	89	74	62	65	65	65
前・後期別参加者数	161	115	67	101	86	110	98	208	258	142	84	158	4.6	4.9	5.8	4.1	6.2	4.1	6.2	4.1
年間参加者総人数	161	182		187		187														
1科目当たりの参加者数	6.2	5.5	7.4	5.9	7.2	6.9	6.1	8.2	7.4	5.6	4.7	7.5	3.6	4.9	5.8	4.1	6.2	4.1	6.2	4.1

5-2 点検・評価

表2に、今年度と過去9年間の学部、学科別の研究授業実施数と研究授業の参観者数の推移を示す。「教員相互による授業参観型」と「目標設定型」を合わせた実施科目数はその年により変動があり、昨年度は28科目、今年度は26科目(27日)と減少した。減少の理由としては、昨年度と比較して各学科の年間研究授業実施数が、増加した学科より減少した学科が上回ったためである。1科目当たりの参観者数は昨年度と比較して前期は増加、後期は増減無しであるが、年間参加者総人数は減っている。よって、今年度より始めた周知のための新たな2つの取り組みについては、その効果があったかどうかは判断が難しい。

表3には、各学科の授業参観による参観者の意見と目標設定型の研究授業の効果を、一部抜粋したもの示している。各学部及び学科から提出された報告書によれば、「習熟度の異なる学生であっても、お互いに引き上げる仕組みがあるようだったので、授業の参考にしてみたい。」との意見が挙げられた他、学科によっては授業改善に向けられた「ある程度の区切りで学生に発問し、意見や質問を受け付けてはどうか。」などといった意見も出されていた。今後も学生により良い授業を提供するために、教員でピアレビューを繰り返しながら授業改善の一助にしたいと考えている。

表3 各学科の授業参観による参観者の意見と目標設定型の研究授業の効果

[教員相互による授業参観型] 各学科の授業参観による参観者の意見 研究授業報告書より一部抜粋：●好意的な意見 ■改善を求める意見 (なお、全記録は別CD資料)
(薬学部薬学科)
<ul style="list-style-type: none"> ■ ほとんど学生の私語も無く、講義に集中しやすい環境が保たれている。その分、学生も疲れや すいので、途中で休憩(作業、演習など)を入れると、学生の気分転換が図れると感じた。 ● 他学部教員として本演習を参観して、学生主体の学びを引き出すためには、教員から余り介入 しすぎないことも必要だと、発見があった。
(香川薬学部薬学科)
<ul style="list-style-type: none"> ● プリントの穴埋めや宿題には工夫が見られる。 ■ 教員の説明スピードが速く、教員のペースで授業が進み、一方的な説明であるため、多くの学 生が授業についていけないように思われる。
(文学部全学科)
<ul style="list-style-type: none"> ● 学生間のコミュニケーションが活発になるようにと先生方の創意工夫が随所に感じられました。 ■ 学生間のコミュニケーション力を高めるきっかけとするという観点からみると、グループ内で 相談せずに解答を導くといった学生が相対的に少ないことなどから、運営の方法には改善の余 地があるように思いました。
(文学部英語英米文化学科)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 問題練習・発音練習・リスニング・スピーキングなど複数の活動を用意して、10～15分ごとに 回転させる。
(文学部日本文学科)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 元号のみならず西暦での提示も望まれる。植物の画像提示が効果的であった。丁寧な進め方で

はあるが、本日の主な問題点がややぼやける憾みがある。

- 細密にして丁寧な資料に感心した。挿絵の掲載も効果的である。

(理工学部電子情報工学科)

- 習熟度の異なる学生であっても、お互いに引き上げる仕組みがあるようだったので、授業の参考にしてみたい。

(理工学部機械創造工学科)

- グループで実習を行う場合、積極的に行動する学生と手を出さない学生に分かれるが、数人のグループでなく二人一組であれば、そうなることが低減する。
- 見たところ学生が楽しそうに実習しており、1年生でメカトロニクスのシステムについて学ぶ良い場になっていると思う。

(人間生活学部人間生活学科)

- 最近のトピックスなど実例を挙げながらの説明で概念が理解しやすい。
- ある程度の区切りで学生に発問し、意見や質問を受け付けてはどうか。

(人間生活学部心理学科)

- よく構造化されていた授業であった、分かりやすい説明がなされていた、学生は静かに講義を聞いていてワークに熱心に参加できていた。
- 工夫する点として、授業のまとめについて、今回の説明以外にも色々なやり方が考えられるのではないか。

(人間生活学部児童学科)

- 毎時実施している学生自身の「自己評価表」は、学修への意識を高め、主体的な学びにつながっていると感じた。自分の授業にも取り入れたいと思う。
- 学生同士での討論がもう少し活発であるとなおよかった。

(人間生活学部メディアデザイン学科)

- 説明が長い。小ステップで演習実行するほうが作業しやすい。

(人間生活学部建築デザイン学科)

- 学生自身が「考えることの面白さ」を感じる授業で、プレゼンテーションから学生の真剣さが伝わってきた。

(人間生活学部食物栄養学科)

- 自主的な勉強を促す姿勢が気に入った。身近な例を上げて分かりやすく教えている。
- パワーポイントで示された空欄の答えを丸印で囲むなどをするとわかりやすくなる。

(総合政策学部総合政策学科)

- 教室がグループディスカッションに対応した構造になっておらず、討論をする雰囲気にはなっていないように思う。

(音楽学部音楽学科)

- スマートフォンやパットを使い、五感が刺激される感じでした。
- 「鑑賞」という授業でありながら、学生が、教員の質問に答える、また文章を読むなどの反応する機会を最大限に与えられていた。

(保健福祉学部看護学科)

- 授業のまとめとしての時間の確保ができればなおよかった。
- 資料はカラー刷りで見やすく丁寧に作られていた。特に教科書のページがきちんと示されてお

り、すぐに調べられるように工夫がされていた。

(保健福祉学部人間福祉学科)

- 身近な医療保険の種類や内容が、よく理解できる講義であったという参加教員からの感想であった。
- 資料や視覚的パワーポイントの準備ができ、次回の講義についての説明ができています。

(保健福祉学部臨床工学科)

- 説明の合間に学生へ質問されていて、学生の理解度の確認とともに同級生同士でお互いの理解度を知ることによって刺激になり、学生の学習意欲の向上につながっていると感じた。自身の授業にもこのような方法を取り入れていきたい。

(短期大学部生活科学科)

- 制作している学生の中には器用で無い者もいたが其々のレベルに合わせて丁寧に指導されていると感じた。

[目標設定型] 具体的効果 (研究授業報告書より一部抜粋)

(理工学部ナノ物質工学科 (平成30年1月17日))

目 標 : 卒業研究の目的を理解し、考えを表現する能力を身につけさせる。

結果 (効果) :

- 3年生22人が自己の卒業研究の分野に関する知識や技術を習得し、意義や目標についてプレゼンテーションを行った。発表については自分の発表および他者の発表についてルーブリック評価の形式で評価を行った。
- 本形式での発表会は今年で3年目だが、発表内容は年を追う毎に良くなってきている。これは、学年を超えた連携ができつつあることと、この授業を目標に、3年前期までの授業でもトレーニングをしていることに要因があると思われる。

5-3 改善計画 (改善点)

基本的な実施方法や周知方法については、次年度も同様に継続することが望ましいと考える。

新たな取り組みの一つとして、次年度は研究授業の対象範囲を広げ、その周知を行っていききたい。6年前より、文学部において「新入生宿泊セミナー研修内」で実施したグループワークのファシリテート (公開授業) も、教員相互による授業参観として位置付け実施報告を受けている。他学部および他学科においても同じ状況があると考えられるため、その周知を行うことを検討する。また、「文理学での講義」、「高校生向けのレクチャー」など、教員相互による授業参観となりうる機会があれば、それらも研究授業の対象とすることを提案し含めていきたい。これらが FD 研究部内で承認された場合には、新年度の前期より周知を行っていききたいと考える。また、研究授業の重要性と意義を合同教授会や学部教授会で強く発信し続け、研究授業の参加者を増やし、研究授業が各教員の教授法の向上と学生の理解力や思考力の向上の一助となるように発展させていきたい。

6. 卒業生満足度評価アンケート

6-1 現状

本学では、卒業生満足度評価アンケートを平成 21 年度から継続的に実施している。卒業生満足度評価アンケートは、学生が卒業時に、入学時から卒業までの期間における学生生活の振り返りをとおして、学生からの本学の教育に対する評価を受け、教育の充実と改善に資する資料を得ることを目的に行われ、外部への情報発信の役割も併せ持つものである。

卒業生満足度評価アンケートの評価項目は、『2012（平成 24）年度 FD 研究部会活動報告書』にその分析と課題提言が行われたことを踏まえ、平成 25 年度は調査項目を再検討し、教育方法が改善できるような観点の質問項目に変更され、『2013（平成 25）年度 FD 研究部会活動報告書』に結果と今後の検討課題が掲載された。平成 28 年度には、さらに調査項目を見直し、現行の「Ⅱ－6. 宿題やレポートが多いと感じていましたか」について検討した。平成 29 年度については、前年度と同じ調査項目とした。この背景には、むやみに調査項目を変えるよりも、経時的な変化に着目することがある。

本アンケートは、開始以来紙媒体での回答を卒業生に依頼をしていたが、集計結果が得られるまでに時間がかかること、事務手続きが煩雑であることから、平成 26 年度からは一部 Web による実施が始められた（理工学部に限定）。これにより、Web で実施しても、回答率が低下するものの、卒業生の統計的な傾向をきちんと把握することが可能であることがわかった。この結果を踏まえ、平成 27 年度からは香川キャンパスの卒業生に対して、平成 28 年度からは全学的に Web による実施が始められた。今年度は完全 Web 化にして 3 年目である。

Web 化によるメリットとして、自由記述欄に記載された卒業生の“生の声”を生かすことができるようになったことが挙げられる。紙媒体の場合、自由記述欄に記載されたものは、コストが莫大にかかるためリストアップされるようなことはなかったが、Web 化により自由記述欄のテキストは電子化されているので、リストアップに要するコストが実質的にかからなくなった。卒業生の“生の声”を多くの関係者で共有し、本学の運営改善の助言として利用できるようになった。ただし、個人を中傷しかねない内容が含まれている場合もあるので、取扱いには十分注意する必要がある。

6-2 点検・評価

卒業生満足度評価アンケートは、1,025 人を対象に Web 方式にて行い、346 人から回答を得、回収率 33.8%（前年度は 552 人から回答を得、回収率 52.1%）であった。所属別の内訳は表 6 に示す通りである。

全学全体の評価結果の概要を概観すると、最も高得点は、Ⅳ－4 の「よき友と出会いましたか」（4.46 点）であり、例年と同様であった。次に高得点は、Ⅳ－1 の「キャンパスは清潔でしたか」（4.28 点）、次に、Ⅳ－3 の「頼りになる教員に出会えましたか」（4.21 点）であった。このことから、卒業生は学生時代に良き友と教員に出会い、清潔な環境で大学生活を送っていたことを評価していることが推察される。

表 6 所属別アンケート回答状況

所属名	卒業者数	回答者数	回答率(%)
人間生活学部	301	107	35.5
音楽学部	17	17	100.0
薬学部	85	36	42.4
文学部	55	23	41.8
理工学部	73	43	58.9
総合政策学部	67	10	14.9
香川薬学部	41	32	78.0
保健福祉学部	257	39	15.2
短期大学部	98	39	39.8
全体	1,025	346	33.8

一方、低得点は、新たに追加したⅤ－２の「知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか」（3.52点）、次に、Ⅲ－７の「生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか」（3.61点）であった。これらはFD研究部会として気がかりなため質問項目として追加したものであり、その気がかりがそのまま低い評価として現われたと思われる。この低得点項目は、入試広報委員会や保健管理センター、教務委員会など他委員会や組織体との連携によって改善に資するものと考えられる。卒業生満足度評価アンケートは、FD研究部会の活動しているものであるが、『FD研究部会活動報告書』（冊子体）を全教員に配布しているため、教職員が一丸となって卒業生満足度評価アンケートの評価得点が高くなるよう、今後、各種関連委員会や組織体との連携強化が課題となる。

なお、資料編に、大学全体、大学院・専攻科・学部全体、短期大学部全体に分けて数値とグラフを示しているのご高覧頂きたい。

6-3 改善計画（改善点）

(1) 「ICT 技術（Web）利用」の理解と推進

卒業生満足度評価アンケートの本来の主旨を考えれば、卒業時期を迎えた学生の平常状態での本音の評価の声を聞く必要がある。平成 28 年度は、徳島キャンパスも香川キャンパスも、一律に ICT 技術（Web）を利用し、一定期間の中で、卒業予定者に回答をしてもらった。そのため、本音による生の評価の声が聞こえる回答が得られ、しかも比較検討による分析も可能になった。今後も、「ICT 技術（Web）利用」の理解と推進を進めていこうと考える。ただし、コストと ID 付与など一部の教員の負担と手間も考慮しなければならないので、費用対効果の検討も必要となる。

(2) 卒業生満足度評価アンケート結果を教育環境や教育改善に活かすシステム構築

これまで平成 21 年度～平成 29 年度に渡り、8 年間卒業生満足度評価アンケートを行

い、その結果をもとに、改善計画（改善点）をたて、卒業生満足度評価の方法論やシステムについて改善を行ってきた。そのことにより、教育環境や教育活動が少しずつ改善されてきているが、まだ十分とはいえない。

多大な費用とエネルギーを費やし実施してきた卒業生満足度評価アンケートから教育環境や教育改善に活かす事項が見出されたならば、今後は、その結果を活かすシステムの構築が課題となってくる。卒業生の満足度・不満足度を明らかにする単なるアンケートで終わっては意味がない。今後は、評価結果を活かして機能していくように、例えば、他委員会や組織体との情報共有や連携・協働など教育環境や教育改善に活かすシステム（仕組み）を構築していく時期にきている。

7. ICT利用による運営改善

7-1 現状

(1) 研修会・講演会のビデオ配信

本研究部会が主催する研修会・講演会は、毎年2回以上学内で開催されている。これらは教職員が参加しやすい日を選択して実施しているが、都合により参加できない教職員も少なからず存在する。また、講演内容を後日改めて確認したいという要望もある。

そこで、平成26年度から、講演者の許諾を得て研修会・講演会の様子をビデオ撮影し、学内ネットワーク限定で教職員がその録画ビデオを学内のパソコンやスマートフォン等の情報端末から都合の良いときにいつでも閲覧できるようにしている。平成29年は、平成29年2月27日（徳島キャンパス）と翌28日（香川キャンパス）に開催されたOffice123の谷益美先生による「コーチング入門～学生のやる気を引き出すコツとは～」と、平成29年9月13日に香川キャンパスで開催された愛媛大学の野本ひさ先生による「現代学生の理解と関わり方」の研修会・講演会の内容を講師の許可を得て、ビデオに録画し、学内限定で閲覧できるようにした。

具体的な閲覧方法は、学内ネットワークに接続しているパソコンやスマートフォンに標準でインストールされているブラウザを開き、下記URLを入力すれば専用のサイトが表示される。

閲覧用 URL : <http://fd.bunri-u.ac.jp/videos/>

ビデオ配信は、原則として、講演会終了後約1週間から1年間ほど公開するよう部会で決められている。また、ビデオを再生するためには、教職員番号を入力するようにしている。ビデオ配信に関しては、「古いパソコンでは再生できない、学内ネットワーク限定だと不便だ」という要望・報告を受けており、これらは今後の検討課題である。

(2) 授業評価アンケート結果（アクションプランシート）のWeb公開

本学では全学的に学生による授業評価アンケートを実施している。各授業担当教員には、このアンケートの集計結果に対するコメントや翌年度以降のアクションプランの作成（われわれはこれをアクションプランシートと呼んでいる）を依頼している。

このアンケートをはじめたときは、授業担当教員の研究室の扉にアクションプランシートを一定期間掲示するように担当教員に依頼をしていた。この方法だと、閲覧するためには学生が研究室の前まで出向く必要があるし、実際に掲示されているかどうかを本部会が把握することが困難であった。そこで、平成 24 年度から、学内のネットワークを利用して学生に対して学部別にまとめたアクションプランシートを公開した。

具体的な閲覧方法は、学内ネットワークに接続しているパソコンやスマートフォンに標準でインストールされているブラウザを開き、下記 URL を入力すれば専用のサイトが表示される。

閲覧用 URL : <http://fd.bunri-u.ac.jp/eval/>

アクションプランシートは、PDF 形式のファイルで公開されており、表示させるためにはパスワードの入力が必要である。学生には事前にメールでパスワードを通知し、所属キャンパスのものだけを閲覧できるようにしている。

表 7 に、平成 27 年度から 3 年間に実施された授業評価アンケートのアクションプランシートの閲覧回数（のべ）を示す。閲覧回数は、3 年間連続で増加している。平成 29 年度に大きく増加した理由としては、閲覧期間を長くしたこと、また、このことを告知したことによる影響が考えられる。閲覧期間を長くした理由は、翌年度（平成 30 年度の）履修登録時まで閲覧できるようにした方が学生へのサービスにつながるということである。これまでは、開示後 3 ヶ月程度で閲覧できないようにしていた。このことから、今回の閲覧期間の延長は学生へのサービス向上に寄与したと言える。

表 7 アクションプランシート閲覧状況（平成 27～29 年度前期実施分）

キャンパス	学部専門／一般	のべ閲覧回数		
		H27 年度前期	H28 年度前期	H29 年度前期
徳島	一般総合（学部）	18	12	30
	一般総合（短期大学部）	4	0	13
	人間生活学部	52	50	114
	保健福祉学部	20	32	50
	総合政策学部	12	9	13
	音楽学部	0	3	10
	薬学部	31	28	58
	短期大学部	8	9	22
	非常勤講師担当	6	4	16
香川	一般総合（学部）	16	38	27
	保健福祉学部	26	25	27
	香川薬学部	59	38	50
	理工学部	32	55	40
	文学部	23	17	16
	非常勤講師担当	2	10	15
計		309	330	501

(3) 情報端末による卒業生満足度評価アンケートの実施

本学では全学的に卒業を迎えた学生による卒業生満足度評価アンケートを平成 21 年度から実施している。指摘されている課題として、回答依頼者を全員一ヶ所に集めて実施することが難しいことや、実施コストが高いことが挙げられている。これらの課題の解決を試みるために、平成 26 年度から理工学部の卒業生に対して、また、平成 27 年度からは香川キャンパス全体の卒業生に対して、紙媒体での回答ではなくパソコンやスマートフォンなどの情報端末を利用した回答ができるように、システムを開発した。この結果を踏まえ、平成 28 年度から、全学的に情報端末を利用して答えるようにした。

スマートフォンでの回答の場合、同一人物による複数回の回答を防ぐための仕掛けが必要である。これに関しては、学生が普段使用している学内ポータルサイトのログイン ID とパスワードを活用した。アンケートの実施日を従来の学位記授与式（卒業式）当日ではなく、その日までの 1 ヶ月程度を回答可能期間とした。学位記授与式当日の実施では、評価が高くなりがちであるとの推測も可能であるが、このような実施期間であれば、回答者は日常の雰囲気の中で回答することができ、より正確なものが得られると期待している。ただし、平成 29 年度の回答状況は、学位記授与式当日の回答が最も多くなった。数人の学生に尋ねたところ、1 ヶ月前というのは試験や課題などに追われていて卒業生気分にはなりにくい、回答期日が卒業式なのでそのときに回答すればいいだろうと思っていた、という旨の意見があった。

一般に、スマートフォンなどでアンケートを実施した場合、回答率は悪くなると言われている。これまでにわれわれが他大学を調査した範囲であれば、大学における全学的なアンケートでは、回答率が 20%程度にとどまるのが普通である。そこで、同様にした本アンケートでは、期間中に数回、学部担当者がメールや口頭による回答依頼を行った。この結果として、前年度の回答率（約 52%）よりも減少したものの（今年度は約 34%）全国平均よりは高い回答率であった。この詳細については「6 卒業生満足度評価アンケート」で述べている。

昨年度の実施において何人かの学生から「自分のスマートフォンでは回答できない」という反応が見受けられた。これは、スマートフォンに既に登録されているアカウントでは回答できないにもかかわらず、回答用アカウントではないもので回答しようとしたことが原因である。そこで今年度は、Windows 用、iOS 用、android 用における回答ガイド（PDF）を作成し、回答用サイトのトップページにリンクを貼り付けた。これにより今年度において同様な反応をする学生はいなくなった。

(4) 学習支援システムの普及

本学では、平成 27 年度から Google 社が教育機関向けに無料で公開している Google Apps for Education（平成 28 年 9 月から、「G Suite for Education」へ呼称変更）を導入した。このサービスには、文書作成や表計算のためのアプリの他に、アンケートを作成したり、講義で使用する資料や課題などの管理をしたりすることができるアプリも含まれている。これらのアプリを講義で活用すれば、今までよりも効率的な講義運営や質の高い教育ができることが期待されるので、本部会では、このサービスの本学での利用を推進している。

これまでに、本学での利用および実証実験がいくつか試みられている。それらの正式な報告はまだないが、概ね良好な教育的効果が見受けられている。また、講義での利用について、学生からも好意的な感想が挙げられているようである。

平成 29 年度には、このサービスの普及を目指して、9 月 15 日に徳島キャンパスで情報センターの協力のもとに「本学 LMS の基本操作実習」という研修会を開催した。13 名の教職員が参加した。

7-2 点検・評価

ICT を利用して FD 活動の一部を効率良く運用することを試みた。システム導入のための人的・経済的コストは低くはないが、一度導入すれば効率よく FD 活動を支援できることがわかった。ただし、すべての活動に ICT を導入するのが良いということではなく、大幅に作業手順が変わらないような定型処理への導入が有効である。全国的に大規模大学において IR (Institutional Research) の導入が盛んである。本学も IR 導入を見据えた FD や教育活動における ICT 利用を今後もより推し進める必要があると考えている。

7-3 改善計画 (改善点)

上記のような試みをより効果的なものにするには、本学教職員の ICT スキルの向上が不可欠である。そのため、新任・昇任教員研修の中での実習や、講習会、勉強会を次年度の活動に組み入れるよう計画を進めている。

8. おわりに

徳島文理大学 FD 研究部会では、平成 19 年 12 月の発足より、学生のより深い学びを促進するため、様々な授業改善活動の取り組みを推進・支援してきた。

本年度の認証評価においても、FD 活動について、様々な活動を展開してきたことに対して高い評価をいただいた一方、研修会・講演会の受講率のより一層の向上について意見をいただいた。幸いにも、多くの教職員の賛同とご支援・ご援助をいただくとともに、継続的に FD 活動に関わっていただける先生方も年々増加しており、講演会については、後日 DVD 等を視聴いただくことで全員が受講できる方策も目途がたってきた。

ただし、アクティブ・ラーニングについては、回数を増やすことや、外部研修にも参加いただくなど、さらなる取り組みを進める必要がある。

今後、様々な場面で、IR が進んでいくことが期待されている。それとともに、学生からのセカンドオピニオンをうまく取り込むことで、授業改善が一層進むと考えられる。学生にとって、今やスマートフォンやタブレットは生活の一部となりつつある。Wi-fi 環境を充実させ、それを利・活用することでさまざまな気づきと授業改善につながると考えられる。

本年度の活動に対する皆様のご尽力とご理解に感謝と敬意を申し上げますとともに、来年度もより幅広い FD 活動を SD と一体として進められるよう、教職員各位のより一層のご支援をお願いする次第である。

9. 用語解説

【SPOD】

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education）の頭文字をとって「SPOD」と呼ばれている。四国地区の大学及び高等専門学校との連携・協働によって、地区内のFD／SD事業の推進と大学等の教育力の向上を図ることを目的として、平成20年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業としてスタートし、現在、四国地区にある32の高等教育機関が加盟するネットワーク。

【ファカルティ・ディベロップメント（FD）】

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の実施、新任教員のための研修会の実施などを挙げることができる。

【スタッフ・ディベロップメント（SD）】

事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組みを指す。

【ディプロマ・ポリシー（DP）】

卒業認定・学位授与に関する基本的な方針。学部・学科が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質・養成する人材像と教育研究上の目的を記したものの。

【カリキュラム・ポリシー（CP）】

教育課程編成・実施の方針。DPを保証する体系性と整合性が担保されたカリキュラムを記したものの。

【アドミッション・ポリシー（AP）】

入学者受け入れ方針。各大学・学部がDPを踏まえ、どのような教育活動を行い、また、どのような学生を求めているのかなどの考え方をまとめたものの。

【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的・倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学修等が含まれるが、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

【ルーブリック評価】

いくつかの評価項目について、各レベルの典型となる状況の評価尺度として記述し、学習者のパフォーマンスを評価するもの。通常、表のかたちで示され、判定結果を丸で囲うようにして採点する。学習プロセスの中の場面を切り出し、それぞれに評価項目を設定する。

【ポートフォリオ】

大学等の教員が自分の授業や指導の記録である「教育業績ファイル」を意味するティーチング・ポートフォリオと学生が学習過程ならびに各種の学習成果を長期にわたって収集したものを指すラーニング・ポートフォリオがある。

【IR（機関調査）】

機関の計画策定、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する目的で、高等教育機関の内部で行われる実践志向の強い組織的な調査分析活動。

10. 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部 F D 研究部会内規

(設 置)

第1条 徳島文理大学教育開発機構設置要綱に基づき、本研究部会(以下「F D 研究部会」という。)を設置する。

(目 的)

第2条 全学的なF D活動を推進及び支援し、教育の質の向上を図ることを目的とする。

(調査研究事項)

第3条 F D研究部会は、次に掲げる事項を調査研究する。

1. F D研究部会の運営
2. F D活動に関する情報収集と提供
3. F D活動の企画・立案
4. F D活動実施計画の立案・実施
5. F D活動の評価
6. その他、F D研究部会が必要と認めた事項

(組 織)

第4条 F D研究部会は、次の委員をもって構成する。

1. 部会長 1名
2. 部員 各学部より1名、教育・研究支援グループより若干名

第5条 部会長及び部員の選任

1. 部会長は学長が任命する。
2. 部員は各学部長及び教務部長が学長に推薦し、学長が任命する。

第6条 部会長及び部員の退任

1. 部会長は、諸事情により退任する場合は学長に申し出なければならない。
2. 部員は、諸事情により退任する場合は各学部長あるいは教務部長に申し出なければならない。

(会 議)

第7条 部会の開催

1. 部会長は、原則として毎月1回部会を開催し、これを主宰する。
2. 部員は、部会長の招集に応じ部会に出席しなければならない。やむを得ない事情により欠席する場合は、代理の出席者を立てなければならない。

(任 期)

第8条 部会長及び部員の任期は原則2か年とし、再任を妨げない。

(事務局)

第9条 F D研究部会の事務は、教育・研究支援グループが担当する。

第10条 付則

本内規は、平成19年12月13日から施行する。

本内規は、平成20年12月2日から一部改正施行する。

本内規は、平成26年4月1日から一部改正施行する。

資料編

1	F D研究部会会議	21
1-1	平成29(2017)年度 F D研究部会部員一覧表	
1-2	平成29(2017)年度 F D研究部会会議	
1-3	平成29(2017)年度 F D研究部会議事録【別CD資料】	
2	研修会・講演会	23
2-1	平成29(2017)年度 研修会・講演会実施一覧(学内)	
2-2	平成29(2017)年度 研修会・講演会等参加一覧	
2-3	平成29(2017)年度 研修会・講演会プログラム及びアンケート【別CD資料】	
3	全学授業評価アンケート	27
3-1	平成29(2017)年度 全学授業評価アンケート	
3-2	平成29(2017)年度 前期・大学全体 集計結果	
3-3	平成29(2017)年度 前期・学部全体 集計結果	
3-4	平成29(2017)年度 前期・短期大学部全体 集計結果	
3-5	平成29(2017)年度 後期・大学全体 集計結果	
3-6	平成29(2017)年度 後期・学部全体 集計結果	
3-7	平成29(2017)年度 後期・短期大学部全体 集計結果	
3-8	「学生による授業評価アンケート」実施要領	
3-9	授業評価アンケート結果のフィードバックについて(お願い)	
3-10	アクションプランシート様式	
3-11	平成29(2017)年度 アクションプランシートデータ【別CD資料】	
4	研究授業	37
4-1	平成29(2017)年度 前期 研究授業一覧	
4-2	平成29(2017)年度 後期 研究授業一覧	
4-3	研究授業(教員相互の授業参観)記録様式	
4-4	研究授業(目標設定型)記録様式	
4-5	平成29(2017)年度 研究授業の記録【別CD資料】	
5	卒業生満足度評価アンケート	41
5-1	平成29(2017)年度 卒業生満足度評価アンケート	
5-2	平成29(2017)年度 大学全体 集計結果	
5-3	平成29(2017)年度 大学院・専攻科・学部全体 集計結果	
5-4	平成29(2017)年度 短期大学部全体 集計結果	
5-5	H29年度卒業生満足度評価アンケート(Web)の実施について	
5-6	平成29(2017)年度 学部別データ【別CD資料】	

平成 29(2017)年度 F D 研究部会部員一覽表

	氏 名	所 属
副 学 長	吉田 憲一	
部 会 長	古田 昇	文学部
部 員	青野 透	総合政策学部
〃	宗野 真和	薬学部
〃	河口 雅子	人間生活学部
〃	福島 道子	保健福祉学部(徳島 C)
〃	千葉さやか	音楽学部
〃	則包 光徳	短期大学部
〃	加藤 善久	香川薬学部
〃	上田 雅彦	保健福祉学部(香川 C)
〃	小林 郁典	理工学部
〃	近藤 政行	文学部
事 務 局	新見 延安	教育・研究支援 G(徳島 C)
〃	藤本 桂子	〃
〃	竹本 恵一	教育・研究支援 G(香川 C)

平成 29(2017) 年度 F D 研究部会会議

回 数	日 時	会 場
第 90 回 FD 研究部会	平成 29 年 4 月 20 日(木) 16 : 30 ~ 17 : 30	テレビ会議
第 91 回 FD 研究部会	平成 29 年 5 月 23 日(火) 16 : 30 ~ 17 : 30	テレビ会議
第 92 回 FD 研究部会	平成 29 年 6 月 27 日(火) 16 : 30 ~ 17 : 30	テレビ会議
第 93 回 FD 研究部会	平成 29 年 7 月 27 日(木) 16 : 30 ~ 17 : 30	テレビ会議
第 94 回 FD 研究部会	平成 29 年 9 月 26 日(火) 16 : 30 ~ 17 : 30	テレビ会議
第 95 回 FD 研究部会	平成 29 年 11 月 16 日(木) 16 : 30 ~ 17 : 30	テレビ会議
第 96 回 FD 研究部会	平成 29 年 12 月 21 日(木) 16 : 30 ~ 17 : 30	テレビ会議
第 97 回 FD 研究部会	平成 30 年 2 月 1 日(木) 16 : 30 ~ 17 : 30	テレビ会議
第 98 回 FD 研究部会	平成 30 年 3 月 1 日(木) 14 : 00 ~ 15 : 30	香川キャンパス 管理棟 2 階学園長室

平成 29(2017)年度 研修会・講演会実施一覧(学内)

①第1回FD/SD研修会・講演会 (FD対象) (SPOD遠隔配信)

- ・日 時：5月18日(木) 13:30～15:30
- ・演 題：「アクティブラーニング入門セミナー」
- ・講 師：小林 忠資 (愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室 特任助教)
- ・会 場：徳島キャンパスのみで開催 25号館4階 スタジオ型講義室 17名参加

②第2回FD/SD研修会・講演会 (FD対象) (SPOD遠隔配信)

- ・日 時：9月11日(月) 13:30～15:30
- ・演 題：「大人数講義法の基本」〈夏期FD・SDスキルアップ講座〉
- ・講 師：小林 直人 (愛媛大学学長特別補佐 教育企画室長)
- ・会 場：徳島キャンパス 25号館4階 スタジオ型講義室 (遠隔配信) 12名参加
香川キャンパス 図書館 3階 AVホール (遠隔配信) 8名参加

③第3回FD/SD研修会・講演会 (FD/SD対象) (SPOD遠隔配信)

- ・日 時：9月11日(月) 16:00～17:30
- ・演 題：「3つのポリシーの開発と一貫性構築」
- ・講 師：小林 直人 (愛媛大学学長特別補佐 教育企画室長)
- ・会 場：徳島キャンパス 25号館4階 スタジオ型講義室 (遠隔配信) 13名参加
香川キャンパス 図書館 3階 AVホール (遠隔配信) 9名参加

④第4回FD/SD研修会・講演会 (FD/SD対象) (SPOD講師派遣プログラム)

- ・日 時：9月13日(水) 14:00～15:30
- ・演 題：「学生の理解と関わり方」
- ・講 師：野本 ひさ (愛媛大学教育・学生支援機構 学生支援センター 副センター長/教授)
- ・会 場：主会場 香川キャンパス 図書館 3階AVホール 41名参加
副会場 徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室 (遠隔配信) 28名参加

⑤第5回FD/SD研修会・講演会

- ・日 時：9月14日(木) 香川キャンパス 13:00～15:00
9月15日(金) 徳島キャンパス 13:00～15:00
- ・演 題：「本学LMSの基本操作実習」
- ・講 師：理工学部准教授 小林 郁典、情報センター 松田和也、松井康
- ・会 場：徳島キャンパス 25号館 (メディアセンター) 3階メディアラボ 13名参加
香川キャンパス 10号館 3階ターミナル室 (1) 16名参加

2-2

平成 29(2017)年度 研修会・講演会等参加一覧

① SPOD研修会・フォーラム等参加

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成29年 5月10日(水)～ 5月12日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	(徳島キャンパス) 入試広報部 板東 真也 教務部 橋本 実佳
平成29年 5月12日(金)	大学FD・SD学習会2017	株式会社 教育ソフトウェア	赤坂山王 健保会館	(徳島キャンパス) 保健福祉学部 宮原 和沙 (香川キャンパス) 文学部 古田 昇 教務部 竹本 恵一
平成29年 5月18日(木)	SPODプログラム【遠隔配信】 アクティブラーニング入門セミナー	SPOD 徳島文理大学	徳島文理大学 徳島キャンパス	(徳島キャンパス)ス 教職員17名
平成29年 6月1日(木)～ 6月3日(土)	平成29年度第1回 次世代リーダー養成ゼミナール SD	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	(徳島キャンパス) 教務部 藤本 正己 (香川キャンパス) 入試広報部 板東 博士
平成29年 7月1日(土)～ 7月2日(日)	第28回授業デザインワークショップ	SPOD 愛媛大学	いまばり 湯ノ浦ハイツ	(徳島キャンパス) 人間生活学部 中川 利津代
平成29年 7月20日(木)～ 7月22日(土)	平成29年度第2回 次世代リーダー養成ゼミナール SD	SPOD 愛媛大学	高知大学	(徳島キャンパス) 教務部 藤本 正己 (香川キャンパス) 入試広報部 板東 博士
平成29年 8月23日(水)～ 8月25日(金)	SPODフォーラム2017	SPOD 愛媛大学	徳島大学	(徳島キャンパス) 人間生活学部 中川 利津代 森川 咲子 薬学部 宗野 真和 総合政策学部 松村 豊大 保健福祉学部 桃井 克将 宮原 和沙 (香川キャンパス) 理工学部 小林 郁典 竹本 恵一

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成29年 8月23日(水)～ 8月25日(金)	SPODフォーラム2017	SPOD 愛媛大学	徳島大学	(徳島キャンパス) 情報センター 武市 久恵 松下 宗孝 松井 康 地域連携センター 藤巻 晃 総務部 石川 弥加 東條 幸枝 西本 多美子 河野 里沙 教務部 多田 一子 藤本 正己 増本 佐優美 堀尾 雪乃 橋本 実佳 高橋 さゆり 中山 多佳子 猪子 郁代 藤本 浩美 (香川キャンパス) 総務部 近藤 陽子 学生部 藏本 賀織 就職支援部 藤本 典子 教務部 後藤田 達也 梶尾 桂子 樫野 仁美 田中 裕子 入試広報部 板東 博士
平成29年 8月30日(水)～ 9月1日(金)	第29回授業デザインワークショップ	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	(徳島キャンパス) 保健福祉学部 宮原 和沙
平成29年 9月6日(水)～ 9月8日(金)	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	SPOD 徳島大学	徳島大学	(徳島キャンパス) 人間生活学科 岡部 千鶴
平成29年 9月11日(月)	SPODプログラム【遠隔配信】 大人数講義法の基本	SPOD 徳島文理大学	徳島文理大学 徳島・香川 両キャンパス	(徳島キャンパス) 教職員12名 (香川キャンパス) 教職員8名
平成29年 9月11日(月)	SPODプログラム【遠隔配信】 3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー;アセスメント・ポリシー)の開発と一貫性構築	SPOD 徳島文理大学	徳島文理大学 徳島・香川 両キャンパス	(徳島キャンパス) 教職員13名 (香川キャンパス) 教職員9名

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成29年 9月13日(水)	SPOD講師派遣 学生の理解と関わり方	SPOD 徳島文理大学	徳島文理大学 徳島・香川 両キャンパス	(徳島キャンパス) 教職員28名 (香川キャンパス) 教職員41名
平成29年 9月14日(木)～ 9月15日(金)	新任教員研修 よりよい授業のためのFDワークショ ップ	SPOD 香川大学	休暇村 讃岐五色台 (坂出市)	(香川キャンパス) 香川薬学部 大岡 嘉治 中妻 章 久保山 和哉
平成29年 10月26日(木)～ 10月28日(土)	平成29年度第3回 次世代リーダー養成ゼミナール SD	SPOD 愛媛大学	香川大学	(徳島キャンパス) 教務部 藤本 正己 (香川キャンパス) 入試広報部 板東 博士
平成29年 1月18日(木)～ 1月19日(金)	平成29年度第4回 次世代リーダー養成ゼミナール SD	SPOD 愛媛大学	愛媛大学	(徳島キャンパス) 教務部 藤本 正己 (香川キャンパス) 入試広報部 板東 博士
平成30年 3月3日(土)～ 3月4日(日)	2017年度 第23回FDフォーラム	公益財団法人 大学コンソーシ アム京都	京都産業大学	(徳島キャンパス) 人間福祉学科 宮原 和沙 (香川キャンパス) 文学部 古田 昇
平成30年 3月27日(火)	FD/SD講演会 アクティブラーニングにおける学び の多様性	九州大学	JR博多シティ	(香川キャンパス) 文学部 古田 昇

②SPOD会議参加一覧表

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
平成29年 12月1日(金)	第1回T-SPOD会議	SPOD 徳島大学	徳島大学	(徳島キャンパス) 教務部 新見 延安
平成30年 3月29日(木)	平成29年度 「四国地区大学教育能力開 発ネットワーク」 総会及びFD/SD分科会	SPOD	愛媛大学	学長 桐野 豊 (徳島キャンパス) 教務部 新見 延安 (香川キャンパス) 教務部 竹本 恵一

平成 29(2017)年度 全学授業評価アンケート

アンケート 実施期間	(第1クォーター) 平成29年 5月23日(火) ～ 6月 3日(土) (前期・第2クォーター) 平成29年 7月10日(月) ～ 7月24日(月) (第3クォーター) 平成29年11月 9日(木) ～ 11月21日(火) (後期・第4クォーター) 平成30年 1月 4日(木) ～ 1月26日(金)
アンケート 実施率	(前期) 実施率 99.4% 総科目数 869 実施科目数 864 (後期) 実施率 99.4% 総科目数 860 実施科目数 855
アクションプランシート 記入期間	(前期) 平成29年 9月11日(月) ～ 9月26日(火) (後期) 平成29年 3月 5日(月) ～ 3月16日(金)
アクションプランシート 記入率	(前期) 記入率 99.9% (後期) 記入率 98.1%
アンケート結果 アクションプランシート 公開期間	(前期) 平成29年 10月17日(火) ～ 平成30年 9月27日(木) (後期) 平成30年 4月 2日(月) ～ 平成31年 3月19日(火)

3-2 (前期・大学全体)

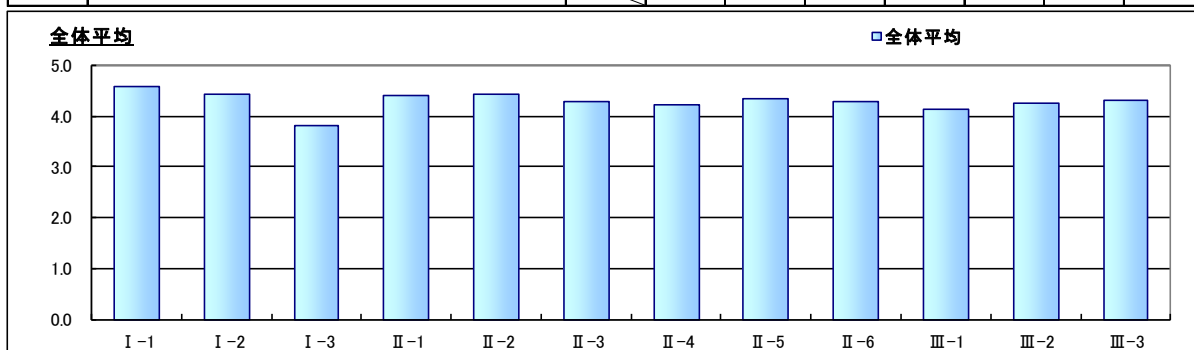
2017年度前期

授業に対する学生の評価アンケート集計結果(全体)

徳島文理大学

受講者数	37,961
回答者数	32,430

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.59	22,003 68.0%	8,107 25.0%	1,724 5.3%	386 1.2%	145 0.4%	32,365	65
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.44	17,918 55.4%	11,530 35.6%	2,395 7.4%	352 1.1%	155 0.5%	32,350	80
3	あなたはこの授業に関して、時間外学習を行いましたか	3.80	10,983 34.0%	10,208 31.6%	6,752 20.9%	2,330 7.2%	2,029 6.3%	32,302	128
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.39	17,704 54.8%	10,307 31.9%	3,779 11.7%	307 1.0%	218 0.7%	32,315	115
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.44	18,991 58.7%	9,812 30.3%	2,749 8.5%	478 1.5%	311 1.0%	32,341	89
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.28	17,090 52.9%	9,818 30.4%	3,566 11.0%	1,200 3.7%	661 2.0%	32,335	95
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.22	16,007 49.5%	10,248 31.7%	4,071 12.6%	1,242 3.8%	739 2.3%	32,307	123
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.36	17,715 54.9%	10,031 31.1%	3,406 10.5%	713 2.2%	423 1.3%	32,288	142
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.29	16,903 52.4%	9,920 30.7%	4,003 12.4%	890 2.8%	547 1.7%	32,263	167
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.13	13,068 40.5%	12,766 39.6%	4,609 14.3%	1,210 3.8%	598 1.9%	32,251	179
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.26	15,453 47.9%	11,457 35.5%	4,026 12.5%	819 2.5%	494 1.5%	32,249	181
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.31	16,870 52.4%	10,400 32.3%	3,639 11.3%	798 2.5%	499 1.5%	32,206	224
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			41.5%	36.7%	19.9%	0.8%	1.1%	371	32,059
2			38.5%	40.0%	19.4%	0.0%	2.2%	325	32,105
3			39.0%	39.0%	20.4%	0.3%	1.3%	318	32,112



3-3 (前期・学部全体)

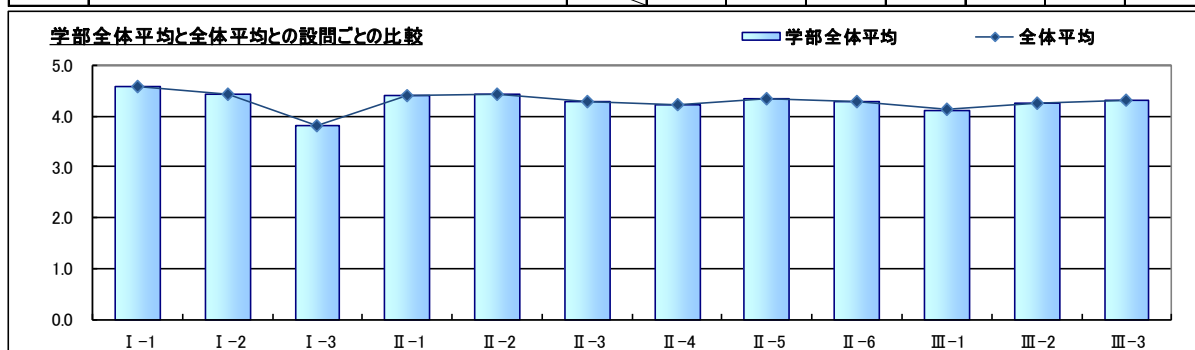
2017年度前期

授業に対する学生の評価アンケート集計結果(全体)

徳島文理大学

集計単位	学部全体	受講者数	34,658
		回答者数	29,626

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.59	20,163 68.2%	7,340 24.8%	1,577 5.3%	349 1.2%	134 0.5%	29,563	63
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.44	16,340 55.3%	10,525 35.6%	2,218 7.5%	323 1.1%	144 0.5%	29,550	76
3	あなたはこの授業に関して、時間外学習を行いましたか	3.81	10,021 34.0%	9,439 32.0%	6,178 20.9%	2,075 7.0%	1,791 6.1%	29,504	122
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.39	16,137 54.7%	9,449 32.0%	3,452 11.7%	281 1.0%	198 0.7%	29,517	109
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.43	17,168 58.1%	9,055 30.7%	2,579 8.7%	450 1.5%	290 1.0%	29,542	84
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.27	15,492 52.5%	8,989 30.4%	3,305 11.2%	1,119 3.8%	630 2.1%	29,535	91
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.21	14,504 49.2%	9,374 31.8%	3,773 12.8%	1,163 3.9%	694 2.4%	29,508	118
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.35	16,046 54.4%	9,208 31.2%	3,170 10.7%	671 2.3%	399 1.4%	29,494	132
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.29	15,343 52.1%	9,090 30.8%	3,691 12.5%	843 2.9%	504 1.7%	29,471	155
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.12	11,801 40.1%	11,710 39.8%	4,256 14.4%	1,135 3.9%	556 1.9%	29,458	168
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.25	14,026 47.6%	10,524 35.7%	3,688 12.5%	761 2.6%	458 1.6%	29,457	169
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.31	15,307 52.0%	9,541 32.4%	3,351 11.4%	755 2.6%	464 1.6%	29,418	208
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			39.7%	37.8%	20.6%	0.9%	0.9%	320	29,306
2			36.8%	41.8%	19.6%	0.0%	1.8%	280	29,346
3			37.0%	40.3%	21.2%	0.4%	1.1%	273	29,353

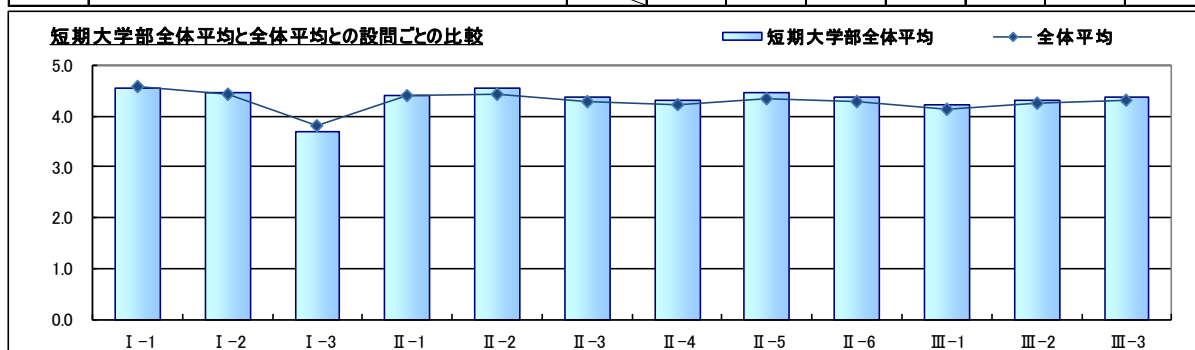


3-4 (前期・短期大学部全体)

2017年度前期 授業に対する学生の評価アンケート集計結果(全体) 徳島文理大学

集計単位	短期大学部全体	受講者数	3,303
		回答者数	2,804

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.57	1,840 65.7%	767 27.4%	147 5.2%	37 1.3%	11 0.4%	2,802	2
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.47	1,578 56.4%	1,005 35.9%	177 6.3%	29 1.0%	11 0.4%	2,800	4
3	あなたはこの授業に関して、時間外学習を行いましたか	3.70	962 34.4%	769 27.5%	574 20.5%	255 9.1%	238 8.5%	2,798	6
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.40	1,567 56.0%	858 30.7%	327 11.7%	26 0.9%	20 0.7%	2,798	6
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.55	1,823 65.1%	757 27.0%	170 6.1%	28 1.0%	21 0.8%	2,799	5
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.39	1,598 57.1%	829 29.6%	261 9.3%	81 2.9%	31 1.1%	2,800	4
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.33	1,503 53.7%	874 31.2%	298 10.6%	79 2.8%	45 1.6%	2,799	5
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.46	1,669 59.7%	823 29.5%	236 8.4%	42 1.5%	24 0.9%	2,794	10
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.37	1,560 55.9%	830 29.7%	312 11.2%	47 1.7%	43 1.5%	2,792	12
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.23	1,267 45.4%	1,056 37.8%	353 12.6%	75 2.7%	42 1.5%	2,793	11
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.31	1,427 51.1%	933 33.4%	338 12.1%	58 2.1%	36 1.3%	2,792	12
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.39	1,563 56.1%	859 30.8%	288 10.3%	43 1.5%	35 1.3%	2,788	16
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			52.9%	29.4%	15.7%	0.0%	2.0%	51	2,753
2			48.9%	28.9%	17.8%	0.0%	4.4%	45	2,759
3			51.1%	31.1%	15.6%	0.0%	2.2%	45	2,759



3-5 (後期・大学全体)

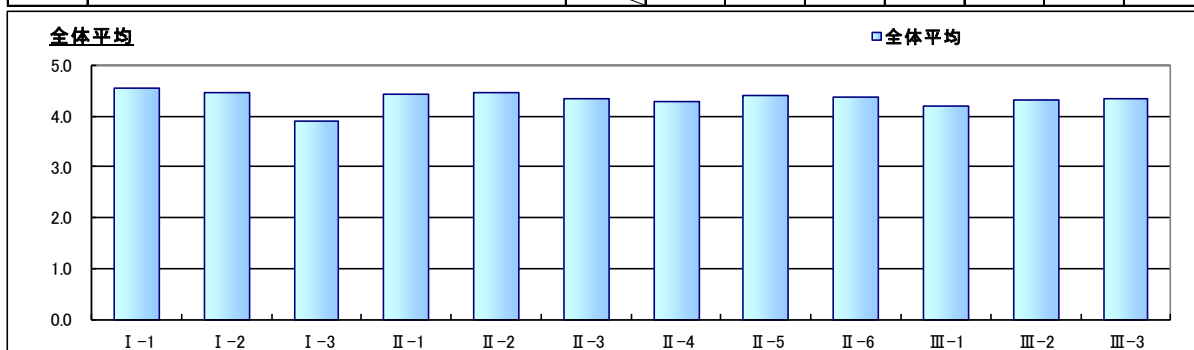
2017年度後期

授業に対する学生の評価アンケート集計結果(全体)

徳島文理大学

受講者数	31,972
回答者数	26,507

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.56	17,254 65.2%	7,196 27.2%	1,565 5.9%	318 1.2%	114 0.4%	26,447	60
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.45	14,610 55.3%	9,616 36.4%	1,894 7.2%	224 0.8%	95 0.4%	26,439	68
3	あなたはこの授業に関して、時間外学習を行いましたか	3.90	9,926 37.6%	8,376 31.7%	5,059 19.2%	1,662 6.3%	1,372 5.2%	26,395	112
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.42	14,846 56.2%	8,471 32.1%	2,641 10.0%	261 1.0%	200 0.8%	26,419	88
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.48	15,856 60.0%	8,044 30.4%	2,009 7.6%	292 1.1%	229 0.9%	26,430	77
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.35	14,452 54.7%	8,232 31.2%	2,584 9.8%	723 2.7%	434 1.6%	26,425	82
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.28	13,609 51.5%	8,484 32.1%	2,998 11.4%	821 3.1%	499 1.9%	26,411	96
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.39	14,895 56.4%	8,103 30.7%	2,589 9.8%	478 1.8%	326 1.2%	26,391	116
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.37	14,587 55.4%	8,082 30.7%	2,775 10.5%	533 2.0%	370 1.4%	26,347	160
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.19	11,241 42.6%	10,594 40.2%	3,336 12.6%	831 3.1%	384 1.5%	26,386	121
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.31	13,203 50.0%	9,454 35.8%	2,852 10.8%	557 2.1%	317 1.2%	26,383	124
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.35	14,102 53.5%	8,690 33.0%	2,695 10.2%	502 1.9%	371 1.4%	26,360	147
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			48.0%	29.3%	20.1%	1.0%	1.7%	294	26,213
2			45.4%	29.9%	22.7%	0.4%	1.6%	251	26,256
3			46.8%	28.8%	22.4%	0.8%	1.2%	250	26,257



3-6 (後期・学部全体)

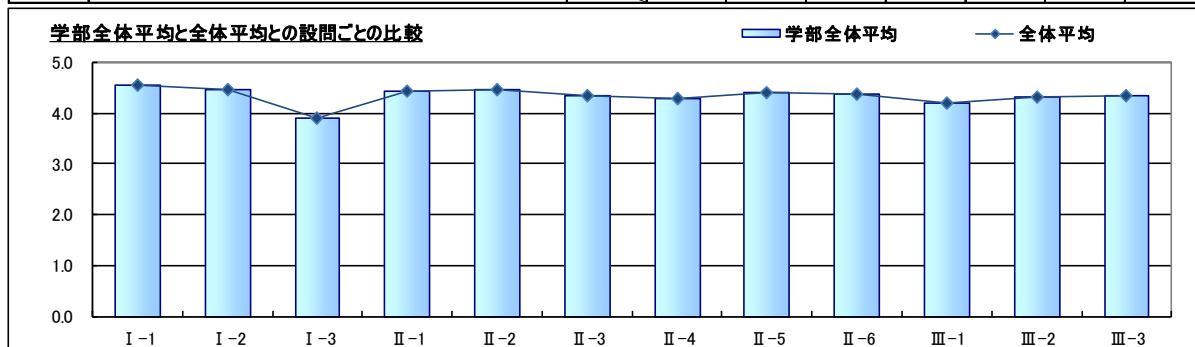
2017年度後期

授業に対する学生の評価アンケート集計結果(全体)

徳島文理大学

集計単位	学部全体	受講者数	28,643
		回答者数	23,780

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.56	15,533 65.5%	6,447 27.2%	1,388 5.8%	261 1.1%	100 0.4%	23,729	51
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.45	13,109 55.3%	8,619 36.3%	1,713 7.2%	196 0.8%	86 0.4%	23,723	57
3	あなたはこの授業に関して、時間外学習を行いましたか	3.91	8,911 37.6%	7,613 32.1%	4,497 19.0%	1,468 6.2%	1,204 5.1%	23,693	87
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.42	13,347 56.3%	7,581 32.0%	2,348 9.9%	240 1.0%	191 0.8%	23,707	73
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.47	14,148 59.7%	7,255 30.6%	1,832 7.7%	264 1.1%	216 0.9%	23,715	65
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.34	12,962 54.7%	7,400 31.2%	2,301 9.7%	649 2.7%	401 1.7%	23,713	67
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.28	12,181 51.4%	7,652 32.3%	2,670 11.3%	731 3.1%	465 2.0%	23,699	81
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.39	13,339 56.3%	7,309 30.8%	2,315 9.8%	434 1.8%	303 1.3%	23,700	80
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.37	13,085 55.3%	7,292 30.8%	2,461 10.4%	478 2.0%	342 1.4%	23,658	122
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.19	10,020 42.3%	9,538 40.3%	3,019 12.7%	753 3.2%	350 1.5%	23,680	100
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.31	11,815 49.9%	8,498 35.9%	2,578 10.9%	504 2.1%	282 1.2%	23,677	103
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.35	12,607 53.3%	7,829 33.1%	2,417 10.2%	462 2.0%	339 1.4%	23,654	126
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			48.0%	28.5%	20.3%	1.2%	2.0%	256	23,524
2			45.0%	29.4%	23.4%	0.5%	1.8%	218	23,562
3			46.8%	27.8%	23.1%	0.9%	1.4%	216	23,564



3-7 (後期・短期大学部全体)

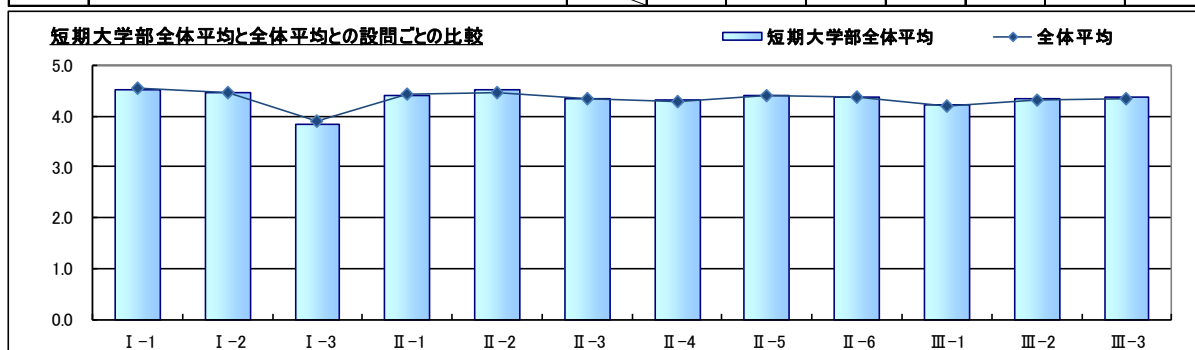
2017年度後期

授業に対する学生の評価アンケート集計結果(全体)

徳島文理大学

集計単位	短期大学部全体	受講者数	3,329
		回答者数	2,727

I. あなたの授業の取り組みについて									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	あなたはこの授業にまじめに出席しましたか	4.51	1,721 63.3%	749 27.6%	177 6.5%	57 2.1%	14 0.5%	2,718	9
2	あなたはこの授業を理解しようと努めましたか	4.46	1,501 55.3%	997 36.7%	181 6.7%	28 1.0%	9 0.3%	2,716	11
3	あなたはこの授業に関して、時間外学習を行いましたか	3.84	1,015 37.6%	763 28.2%	562 20.8%	194 7.2%	168 6.2%	2,702	25
II. 授業内容及び方法について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	授業内容は、シラバスにそっていたと思いますか	4.42	1,499 55.3%	890 32.8%	293 10.8%	21 0.8%	9 0.3%	2,712	15
2	授業に対する教員の熱意は感じられましたか	4.53	1,708 62.9%	789 29.1%	177 6.5%	28 1.0%	13 0.5%	2,715	12
3	教員の説明は聞き取りやすかったですか	4.35	1,490 54.9%	832 30.7%	283 10.4%	74 2.7%	33 1.2%	2,712	15
4	教員の説明はわかりやすかったですか	4.30	1,428 52.7%	832 30.7%	328 12.1%	90 3.3%	34 1.3%	2,712	15
5	教科書や教材(プリントなど)は適切でしたか	4.42	1,556 57.8%	794 29.5%	274 10.2%	44 1.6%	23 0.9%	2,691	36
6	板書や視聴覚教材などは効果的に利用されていましたか	4.37	1,502 55.9%	790 29.4%	314 11.7%	55 2.0%	28 1.0%	2,689	38
III. 授業全体について									
No.	設問文	当集計平均点	上段:回答数/下段:回答率(%)					有効回答	無効回答
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらでもない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
1	この授業の内容は理解できましたか	4.24	1,221 45.1%	1,056 39.0%	317 11.7%	78 2.9%	34 1.3%	2,706	21
2	この授業は知識・技術の習得につながりましたか	4.33	1,388 51.3%	956 35.3%	274 10.1%	53 2.0%	35 1.3%	2,706	21
3	総合的に見て、この授業はよかったですか	4.38	1,495 55.2%	861 31.8%	278 10.3%	40 1.5%	32 1.2%	2,706	21
IV. 各学部用									
No.	設問文	当集計平均点	回答率(%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1			47.4%	34.2%	18.4%	0.0%	0.0%	38	2,689
2			48.5%	33.3%	18.2%	0.0%	0.0%	33	2,694
3			47.1%	35.3%	17.6%	0.0%	0.0%	34	2,693



「学生による授業評価アンケート」後期・第4クォーター実施要領

平成30年1月
徳島文理大学・短期大学部FD研究部会

今年度、後期・第4クォーターにおける標題のアンケート実施について、下記の要領でご協力くださるようお願いいたします。

記

1. アンケートは授業担当者が配布し、趣旨・記入方法を説明してください。
2. 回収と提出は、原則として授業担当者以外（例：各クラス委員、受講代表者など）が行ってください。なお、回収後は直ちに提出するよう指示ください。
3. アンケート実施期間
平成30年1月4日(木)～1月26日(金)
4. 提出期限：各アンケート実施当日
5. 提出場所：徳島キャンパス 1号館1階 教務グループカウンターまたは
25号館6階 教育・研究支援グループ
香川キャンパス 各学部事務室

【記入方法及び注意事項】

1. 他学部の学生が履修している科目がありますが、区別せずに実施してください。
2. アンケート実施の趣旨及び記入に際しての注意を、以下のようにご説明ください。
「授業アンケートは、授業の改善に役立てるために行います。そのため、一人ひとりの学生には、誠意をもってきちんと回答することが期待されています。
また、自由記述欄には、授業の方法について、授業を良くするための意見を書いてください。」
3. マークシートを学生1名につき1枚配布してください。
4. マークシートを汚したり、折り曲げたりしないように注意してください。
5. 記入にはHBの鉛筆またはシャープペンシルを使用するように指示してください。
6. マークシートの「年度」「所属学部」「学年」「科目コード」等を記入し、それぞれ該当する数字をマークするよう指示してください。
「年度」・・・17
「所属学部」・・・学生の所属学部。裏面「学部コード一覧表」参照
「科目コード」・・・封筒ラベル参照
黒板に書くなどして、正確なコードを学生に知らせてください。
7. 回答には約15分間かけてください。
8. 回収後は速やかにマークシートを残部も含めすべて封筒に入れてください。
9. その他 何かご不明な点がありましたら下記までご連絡ください。
徳島キャンパス藤本（内線：8662）
香川キャンパス田中（内線：7552）

教員各位

FD研究部会

授業評価アンケート結果のフィードバックについて（お願い）

日頃より、本学のFD活動にご理解ご支援いただき、心より感謝申し上げます。また、学生による授業評価アンケートへのご協力、重ねてお礼申し上げます。

さて、今年度後期及び第3クォーター・第4クォーターのアンケート結果がまとまりましたのでご覧頂き、それをもとに以下の要領で、「アクションプランシート」の作成をお願いいたします。

「アクションプランシート」は、回答してもらったアンケートに対する、学生への大切なフィードバックですので、ご協力をよろしくお願いいたします。

(1) 封筒の中に、アンケート用紙と集計結果表が入っています。

- ①自由記述欄は集計表に記載されていませんので、アクションプランシート記入の際に、ご活用ください。
- ②アンケート用紙は、担当の先生方で平成31年3月末まで保管していただき、以降は各自で処分してください。

(2) アクションプランシートの作成は、次の要領で、Web上で行います。

- ①3月5日(月)に、各先生方のメールアドレスへ以下のメールが届きます。

件 名：《徳島文理大学授業評価アンケートWEBサイト【ハイブリッド授業評価】システムのご案内》
内 容：アクションプランシート作成依頼
「URL」、「ログインID」、「パスワード」の案内

※3月6日になってもメールが届かないときは、以下の担当者までご連絡下さい。
※ログインすることで、アンケート集計結果（過去のアンケート結果を含む）をWeb上で閲覧でき、経年比較による分析ができます。

- ②アンケート集計結果と自由記述欄を参考に、アクションプランシートを記入します。

記入項目：「アンケート結果に対するコメント」と「今後の授業に向けて」

入力期間：3月5日(月)～3月16日(金)

※入力期間の日付を過ぎると入力ができなくなりますので、ご注意ください。
※入力方法の詳細は、操作マニュアル（ログイン画面右上「ヘルプ」で表示）を参照してください。

(3) アクションプランシートの公開は、次のようになっています。

公開期間：平成30年4月2日(月)～平成31年3月15日(金)予定

※教員及び学生は、所属キャンパスの各科目について閲覧することができます。

※不明な点がございましたら、以下の担当者へお尋ねください。

徳島キャンパス：藤本桂子（E-mail:fujimoto-ke@tks.bunri-u.ac.jp TEL.088-602-8662）

香川キャンパス：田中裕子（E-mail:tanaka@kagawa.bunri-u.ac.jp TEL.087-899-7552）

3-10

アクションプランシート

2017 年度後期 曜日 ()

科目名 : ()

教員名 : ()

項目見出し	コメント
アンケート結果に対するコメント	
今後の授業に向けて	

4-1

平成29(2017)年度前期 研究授業一覧

徳島キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科	科目	受講 学生数	教授法※	シラバス 科目番号	授業者	教室
5月31日	水	4	人間生活	食物栄養	食品加工学	70	講義	85317	岩田 深也	9202
6月7日	水	3	人間生活	児童	保育内容(環境)A	30	講義・演習	85454	川端 恵子	9602
6月8日	木	2	保健福祉	人間福祉	社会保障 I	18	講義	40688	藤田 益伸	2503
6月26日	月	2	総合政策	総合政策	行政法 I	35	※	84949	松村 豊大	23303
7月3日	月	2	薬学	薬学	薬品分析学2	109	講義	10914	中島 勝幸	24202
7月6日	木	1	人間生活	心理	老年心理学	66	講義 グループワーク	85042	東 知幸	9603
7月21日	金	2	保健福祉	看護	精神看護学概論	100	当事者参加	40274	藤森 由子	3807
目標設定型										

※アクティブラーニングを簡易な方法により併用した講義

香川キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科	科目	受講 学生数	教授法※	シラバス 科目番号	授業者	教室
4月 10・11日	日 月		文学	全	新入生宿泊セミナー 研修①, ②	39	対話セミナー		中条義輝 立山善康 上田穂積 山本義浩	香川県立屋島 少年自然の家
6月7日	水	2	文学	日本文学	日本文学講読B I	30	講義	30431	下田 祐輔	302
6月15日	木	2	香川薬	薬	衛生薬学3	59	講義 (配布プリントと板書)	30268	大岡 嘉治	121
目標設定型										

4-2

平成29(2017)年度後期 研究授業一覧

徳島キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科	科目	受講 学生数	教授法※	シラバス 科目番号	授業者	教室
9月29日	金	2	保健福祉	人間福祉	相談・援助の基礎 と専門確立	16 (2年)	講義	40699	宮原 和沙	25号館 10階④
10月10日	火	2	人間生活	メディア デザイン	プログラミング論A	18 (2・3年)	講義	84853	清澄 良策	25号館4階 マルチメディア室
10月19日	木	3	音楽	音楽	音楽鑑賞B・D	17	講義 (アクティブラーニング含む)	85200 85201	ジュゼッペ・ マリオッティ	5611
11月9日	木	2	人間生活	人間生活	生活関連法	17	講義	85295	岡部 千鶴 H29年度新任教員	25号館4階 スタジオ型講義室
12月5日	火	2	薬学部	薬学科	薬学演習1 応用コース	30	自己開発型演習	85324	谷野 公俊	24201
12月8日	金	4	短期大	生活科学 生活科学専攻	フライダルドレスメイク Ⅱ	11	演習 (ドレスのウエスト部分 のはぎ合わせ)	84868	郷司 清子	11001
12月14日	木	4	保健福祉	看護	助産診断技術学 Ⅱ	4	講義	40567	岡島真理子	3号館7階 演習室2
12月15日	金	4	人間生活	建築 デザイン	インテリアデザイン 基礎	33	個別指導	40219	森田 孝夫	23号館7階 230707小製図室
12月20日	水	5	人間生活	児童	道徳教育	17	ケースメソッド	85533	竹内 伸一	9701
1月17日	水	4	人間生活	食物栄養	公衆衛生学Ⅱ	60	講義	85383	中川利津代 H29年度新任教員	9202
目標設定型										

香川キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科	科目	受講 学生数	教授法※	シラバス 科目番号	授業者	教室
11月6日	月	3	理工	機械 創造工	マイコン制御基礎	27	アクティブ・ ラーニング	30259	加治 芳雄	ターミナル室(1)
11月28日	火	2	香川薬	薬	製剤学2	59	講義 (配布プリントとスライド)	30340	徳村 忠一	121
12月6日	水	1	文	英語英米	英語学概論Ⅱ	15	講義	30098	篠田 裕	研講義3
12月7日	木	1	保健福祉	臨床	医用機械工学概論	47	講義	30061	石原 国彦	3342
12月20日	水	3	理工	電子 情報工	ハードウェア工学Ⅰ	33	アクティブ・ ラーニング	30459	古谷 彰教	図書館 ラーニング commons
目標設定型										
1月17日	水	3・4	理工	ナノ 物質工	プロジェクトラボB	23	プレゼンテーション アクティブラーニング	30263	水野 貴之	ナノ棟2階 実験室

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部		学 科	
授 業 者		科 目 名 (シラバス番号)	()
授業協力者		実 施 教 室	
実 施 日 時	平成 年 月 日 曜日 講時		
対 象 学 生			受講学生数： 名
教 授 法			
授業テーマ			
研究授業内容自己評価			
研究授業参観者の意見・感想			
授業参観教員数	名		

研究授業（目標設定型）記録			
学 部		学 科	
実施代表者			
実施期間	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日		
目標の説明			
対象学年 または科目	受講学生数： 名		
具体的な取組み方法			
結果			
協力教員数	名 (内訳)		

平成 29(2017)年度 卒業生満足度評価アンケート

実施期間	平成30年2月1日(水)～3月20日(火)
実施人数	学部(大学院・専攻科含む) 927人 短期大学部 98人 合計 1025人
回答数・回答率	346人 33.8%

(回答の選択肢番号の意味)

5. そう思う
4. ややそう思う
3. どちらでもない
2. ややそう思わない
1. そう思わない

5-2 (大学全体)

2017年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果 (徳島文理大学全体)

徳島文理大学

対象者数	1025
回答者数	346
回答率	33.8%

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	142	204	0
	41.0%	59.0%	0.0%

現所属学科 の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	46	228	70	2	0	0
	13.3%	65.9%	20.2%	0.6%	0.0%	0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	290	17	39	0
	83.8%	4.9%	11.3%	0.0%

あなたの成績につい て一番多かったのは	優	良	可	無効
	169	134	43	0
	48.8%	38.7%	12.4%	0.0%

II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.12	134 38.7%	147 42.5%	43 12.4%	15 4.3%	7 2.0%	346	0
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	3.88	98 28.3%	157 45.4%	55 15.9%	22 6.4%	14 4.0%	346	0
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.12	141 40.8%	140 40.5%	39 11.3%	16 4.6%	10 2.9%	346	0
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.05	120 34.7%	156 45.1%	45 13.0%	17 4.9%	8 2.3%	346	0
5	授業以外の指導(字外実習、見字、補習など)は 充実していましたか	3.94	128 37.0%	123 35.5%	57 16.5%	23 6.6%	15 4.3%	346	0
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	3.97	116 33.5%	141 40.8%	62 17.9%	18 5.2%	9 2.6%	346	0

III. 大学の施設および支援体制について

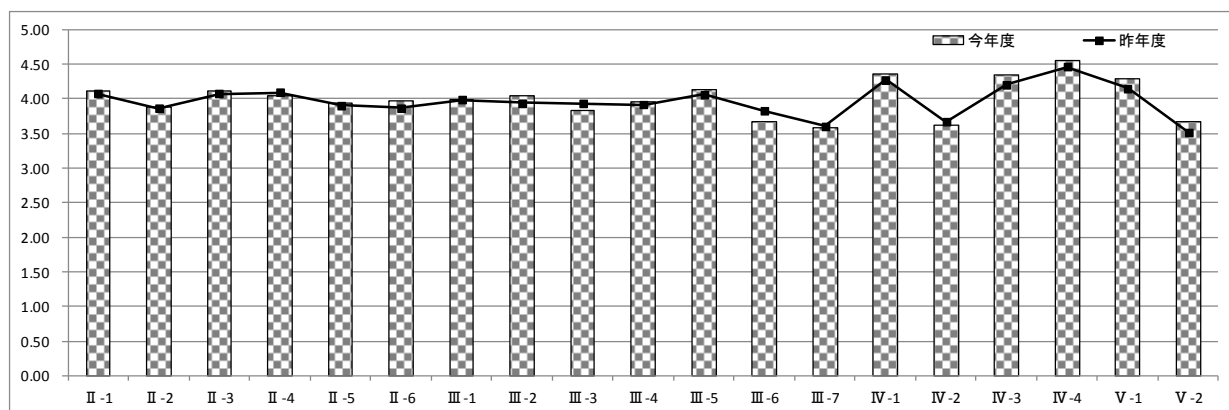
No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	3.98	138 39.9%	109 31.5%	65 18.8%	23 6.6%	11 3.2%	346	0
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.04	159 46.0%	95 27.5%	55 15.9%	22 6.4%	15 4.3%	346	0
3	図書館は利用しやすかったですか	3.83	117 33.8%	117 33.8%	67 19.4%	25 7.2%	20 5.8%	346	0
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	3.96	116 33.5%	133 38.4%	69 19.9%	22 6.4%	6 1.7%	346	0
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.13	145 41.9%	132 38.2%	46 13.3%	14 4.0%	9 2.6%	346	0
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	3.67	116 33.5%	108 31.2%	51 14.7%	33 9.5%	38 11.0%	346	0
7	生活や健康に関する悩みがあつた場合、相談できる 体制は整っていましたか	3.58	85 24.6%	105 30.3%	104 30.1%	31 9.0%	21 6.1%	346	0

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.36	187 54.0%	117 33.8%	24 6.9%	16 4.6%	2 0.6%	346	0
2	クラブやサークル活動に参加しやすかったですか	3.62	93 26.9%	105 30.3%	93 26.9%	33 9.5%	22 6.4%	346	0
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.34	200 57.8%	93 26.9%	34 9.8%	10 2.9%	9 2.6%	346	0
4	よき友と出会えましたか	4.56	244 70.5%	70 20.2%	18 5.2%	9 2.6%	5 1.4%	346	0

V. 総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.29	168 48.6%	132 38.2%	32 9.2%	6 1.7%	8 2.3%	346	0
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと 思いますか	3.67	105 30.3%	105 30.3%	86 24.9%	18 5.2%	32 9.2%	346	0



5-3 (大学院・専攻科・学部全体)

2017年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果 (大学院・専攻科・学部全体)

徳島文理大学

対象者数	927
回答者数	307
回答率	33.1%

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	141 45.9%	166 54.1%	0 0.0%

現所属学科 の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	7 2.3%	228 74.3%	70 22.8%	2 0.7%	0 0.0%	0 0.0%

卒業後 の進路	就職	進学	未定	無効
	253 82.4%	15 4.9%	39 12.7%	0 0.0%

あなたの成績につい て一番多かったのは	優	良	可	無効
	146 47.6%	121 39.4%	40 13.0%	0 0.0%

II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	平均点	上段：回答数/下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.09	113 36.8%	135 44.0%	39 12.7%	13 4.2%	7 2.3%	307	0
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	3.83	81 26.4%	140 45.6%	52 16.9%	20 6.5%	14 4.6%	307	0
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.07	118 38.4%	127 41.4%	38 12.4%	15 4.9%	9 2.9%	307	0
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.03	102 33.2%	142 46.3%	40 13.0%	15 4.9%	8 2.6%	307	0
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	3.91	108 35.2%	110 35.8%	55 17.9%	20 6.5%	14 4.6%	307	0
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	3.94	97 31.6%	128 41.7%	58 18.9%	16 5.2%	8 2.6%	307	0

III. 大学の施設および支援体制について

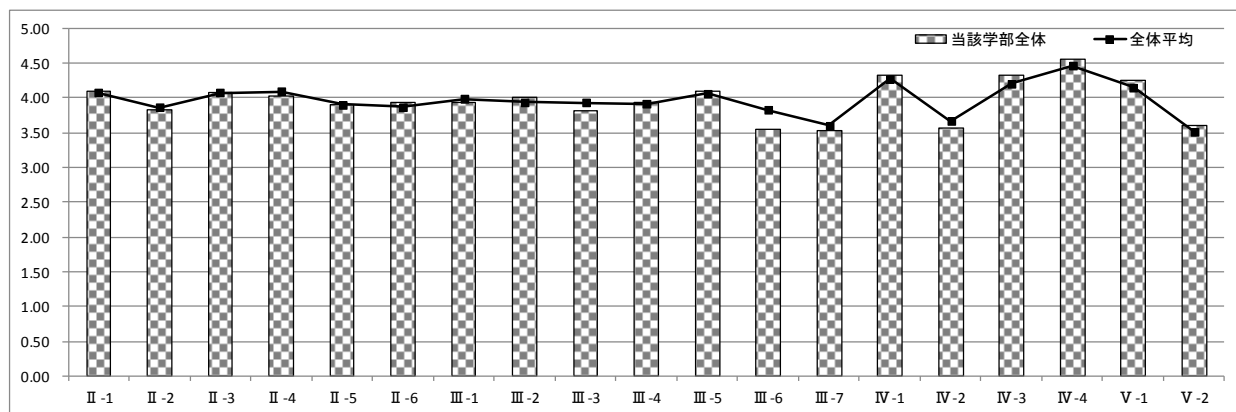
No.	設問文	平均点	上段：回答数/下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	3.94	117 38.1%	98 31.9%	59 19.2%	22 7.2%	11 3.6%	307	0
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.01	137 44.6%	86 28.0%	50 16.3%	19 6.2%	15 4.9%	307	0
3	図書館は利用しやすかったですか	3.81	103 33.6%	104 33.9%	57 18.6%	25 8.1%	18 5.9%	307	0
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	3.93	99 32.2%	121 39.4%	60 19.5%	21 6.8%	6 2.0%	307	0
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.09	123 40.1%	120 39.1%	42 13.7%	13 4.2%	9 2.9%	307	0
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	3.55	92 30.0%	95 30.9%	49 16.0%	33 10.7%	38 12.4%	307	0
7	生活や健康に関する悩みがあつた場合、相談できる 体制は整っていましたか	3.54	70 22.8%	95 30.9%	93 30.3%	28 9.1%	21 6.8%	307	0

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数/下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.33	159 51.8%	109 35.5%	22 7.2%	15 4.9%	2 0.7%	307	0
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.56	75 24.4%	95 30.9%	86 28.0%	30 9.8%	21 6.8%	307	0
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.33	177 57.7%	81 26.4%	32 10.4%	8 2.6%	9 2.9%	307	0
4	よき友と出会えましたか	4.55	214 69.7%	64 20.8%	17 5.5%	7 2.3%	5 1.6%	307	0

V. 総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数/下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.26	146 47.6%	117 38.1%	31 10.1%	5 1.6%	8 2.6%	307	0
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと 思いますか	3.61	84 27.4%	97 31.6%	79 25.7%	16 5.2%	31 10.1%	307	0



5-4 (短期大学部全体)

2017年度 卒業生満足度評価アンケート集計結果 (短期大学部)

徳島文理大学

対象者数	98
回答者数	39
回答率	39.8%

I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	1 2.6%	38 97.4%	0 0.0%

現所属学科 の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	39 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	37 94.9%	2 5.1%	0 0.0%	0 0.0%

あなたの成績について 一番多かったのは	優	良	可	無効
	23 59.0%	13 33.3%	3 7.7%	0 0.0%

II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.33	21	12	4	2	0	39	0
			53.8%	30.8%	10.3%	5.1%	0.0%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.26	17	17	3	2	0	39	0
			43.6%	43.6%	7.7%	5.1%	0.0%		
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.44	23	13	1	1	1	39	0
			59.0%	33.3%	2.6%	2.6%	2.6%		
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.23	18	14	5	2	0	39	0
			46.2%	35.9%	12.8%	5.1%	0.0%		
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	4.23	20	13	2	3	1	39	0
			51.3%	33.3%	5.1%	7.7%	2.6%		
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	4.21	19	13	4	2	1	39	0
			48.7%	33.3%	10.3%	5.1%	2.6%		

III. 大学の施設および支援体制について

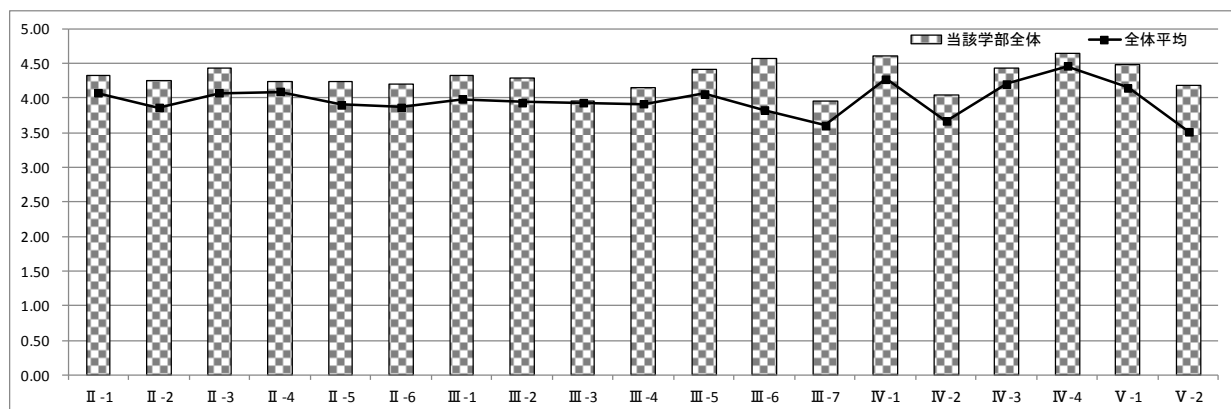
No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.33	21	11	6	1	0	39	0
			53.8%	28.2%	15.4%	2.6%	0.0%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.28	22	9	5	3	0	39	0
			56.4%	23.1%	12.8%	7.7%	0.0%		
3	図書館は利用しやすかったですか	3.95	14	13	10	0	2	39	0
			35.9%	33.3%	25.6%	0.0%	5.1%		
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.15	17	12	9	1	0	39	0
			43.6%	30.8%	23.1%	2.6%	0.0%		
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.41	22	12	4	1	0	39	0
			56.4%	30.8%	10.3%	2.6%	0.0%		
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	4.56	24	13	2	0	0	39	0
			61.5%	33.3%	5.1%	0.0%	0.0%		
7	生活や健康に関する悩みがあつた場合、相談できる 体制は整っていましたか	3.95	15	10	11	3	0	39	0
			38.5%	25.6%	28.2%	7.7%	0.0%		

IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.62	28	8	2	1	0	39	0
			71.8%	20.5%	5.1%	2.6%	0.0%		
2	クラブやサークル活動に参加しやすかったですか	4.05	18	10	7	3	1	39	0
			46.2%	25.6%	17.9%	7.7%	2.6%		
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.44	23	12	2	2	0	39	0
			59.0%	30.8%	5.1%	5.1%	0.0%		
4	よき友と出会えましたか	4.64	30	6	1	2	0	39	0
			76.9%	15.4%	2.6%	5.1%	0.0%		

V. 総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.49	22	15	1	1	0	39	0
			56.4%	38.5%	2.6%	2.6%	0.0%		
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと 思いますか	4.18	21	8	7	2	1	39	0
			53.8%	20.5%	17.9%	5.1%	2.6%		



平成29年度卒業生満足度評価アンケート（Web）の実施について

I 卒業生満足度評価アンケートの実施について

毎年、本学の発展向上のためとして、卒業生（大学院生含む）に対し、本学に対する満足度を調査するためアンケートを実施しております。調査項目は以下の3分野です。

- ①授業・教育課程について
- ②大学の施設および支援体制について
- ③キャンパスライフについて

毎年、多くの卒業生の皆様にアンケートにご協力いただき、おおむねよい評価を受けております。満足度評価アンケート結果は、教職員の皆様に配布しております「FD研究部会活動報告書」に記載し、大学のホームページの「教育・研究支援」の「授業改善活動」でも一般公開しています。

II 卒業生満足度評価アンケート実施の手順（参考として記載いたします。）

1 アンケート実施前

- ・アンケート実施期間を学部や学科内で決めていただきます。
 - ※学内でのアンケート回答の最終締切日は、平成30年3月20日（火）です。
 - ・学部や学科内で、学生への連絡係を決めていただきます。
- 以上の件につきましては、各学部FD委員より確認いたします。

2 アンケート実施開始時

- ・各学部の連絡係の方は、アンケートを開始する日に、卒業生の皆様にメールや学生ポータルサイト等を利用し、アンケート回答の呼びかけをし、周知をお願いいたします。
- ※卒業生へアンケート回答依頼メール文書（別紙の資料1）
 - ・・・各学部FD委員がデータを所持しております。
- ※評価アンケートの内容（別紙の資料2）
 - ・・・すでに起動しております。開始日の連絡をお願いいたします。

各学部や学科内で「アンケート開始日、終了日」等の情報共有し、より多くの卒業生の皆様にアンケートにご協力いただけるような雰囲気作りに努めていただきますよう、お願いいたします。

3 アンケート実施中

- ・アンケート回答状況はFD研究部会から各学部連絡係の方に、週に1度のペースでお知らせいたします。
- ・回答状況をもとに、学部や学科で適宜、ご回答いただけていない卒業生の皆様に、お声がけをお願いいたします。

4 アンケート終了後

- ・当該者以外（学部選択違い等）の回答が含まれている場合は、FD研究部会より各学部連絡係の方に連絡いたします。ご確認のほど、よろしくをお願いいたします。

ご多用中のことと存じますが、より多くの卒業生の皆様の本学に対するご意見やご感想を聞くために、教員の皆様のご理解ご協力賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

F D研究部会活動報告書 第9号

平成29年4月～平成30年3月

平成30年5月発行

編集	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部F D研究部会		
発行	徳島文理大学		
	徳島キャンパス	〒770-8514	徳島県徳島市山城町西浜傍示 180 電話：088-602-8000(代表)
	香川キャンパス	〒769-2193	香川県さぬき市志度 1314-1 電話：087-894-5111(代表)
